

2024 年度

新入生 3000 名への救命救急講習

報告書



2024/05/30
救命救急講習 Project TEAM 作成

目 次

I. 背景	1
II. 救命救急講習の理念	1
III. 救命救急講習の目的	1
IV. 救命救急講習の実施方法	2-3
V. 結果	4-9
VI. まとめ	9-10
VII. 救命救急講習 Project Team メンバー	10-11
VIII. 謝辞	11
IX. 参考文献	11
X. 資料	
サポートスタッフ手順書	

I. 背景

心停止に陥った人を救命するためには、迅速な心肺蘇生の実施と自動体外式除細動器 (Automated External Defibrillator, AED) の使用が極めて重要である¹。京都大学構内には、附属病院を除いて 120 台以上の AED が設置されているが、残念ながら心停止による死亡事例が発生している。AED は学生・教職員が安全なキャンパスライフを送るために必要不可欠なものであるが、AED を単に設置するだけではなく AED を使える人材を育成しなければ意味がない。

京都大学では、2015 年度から国際高等教育院所掌のもと、医学研究科人間健康科学系専攻が中心となり、医学研究科予防医療学分野、初期診療・救急科・救急医学分野および、人間・環境学研究科からの協力を得て、新入生へのガイダンスの一環として全ての新入生約 3,000 人を対象に、胸骨圧迫と AED の使い方を指導する救命救急講習を始めた²。この講習では、人が倒れた場面、特に心停止場面に遭遇した際の救命処置のスキルを学生が習得することのみならず、命の尊さを考え、困っている人に手を差し伸べる人間性を育むことも目標にしている。この取組みは、本学の教育理念である「京都大学は、教養が豊かで人間性が高く責任を重んじ、地球社会の調和ある共存に寄与する、優れた研究者と高度の専門能力をもつ人材を育成する。」と一致しているものである³。過去にこの講習を受けた学生を対象に調査したところ、学部 4 年間において 25 人に 1 人が、人が倒れた現場に遭遇し、遭遇した学生の 2 人に 1 人は何らかの救命処置を行っていた⁴。さらに 2023 年 5 月には、講習を受講した当時 1 回生の学生 2 名が路上で倒れていた男性に遭遇し、救急隊員が到着するまでの間、学んだことを生かし適切な処置を行い、男性は無事に救命され社会復帰に至ったという事例があった⁵。これらの事実は、この講習がいかに重要であるかを示すものだと考えている。

新型コロナウイルス感染症が 5 類に移行するまでは感染拡大防止のためオンラインにて講習を行っていたが、2024 年度は 5 年ぶりに対面講習を再開した。以下にその内容を報告する。

II. 救命救急講習の理念

この講習では、心肺蘇生のスキルを教えることだけでなく、自分や周りの人の命の大切さを考えるきっかけを与え、困っている人に手を差し伸べる人間性を育むことを目的としている。またサポートスタッフ教員のもと、新入生が同級生とコミュニケーションをとる機会を得ることで交友関係の足掛かりになるようにする。

III. 救命救急講習の目的

1. 心肺蘇生の実施や AED を使用することで、救えるいのちがあることを知り、いのちの尊さを考えることができる。
2. 心停止の現場に居合わせた際に、直ちに 119 番通報を行い、迅速に胸骨圧迫を実施し、AED を使用するという救命処置の流れを理解することができる。
3. 同級生やサポートスタッフとコミュニケーションをとることができる。

Ⅳ. 救命救急講習の実施方法

1. 対象

2024 年度京都大学に入学した全学部生 2,908 人

2. 実施日時・場所

2024 年 4 月 2 日(火)、4 月 3 日(水)、4 月 4 日(木)

いずれも 11:00-12:00 と 14:00-15:00、1 日 2 回合計 6 回実施

吉田南 4 号館 4 共 11(1F)、4 共 30(3F)

3. 方法

1) 学生のグループ分け

2,908 人の新生を下記のように学部(学科)ごとに教室に分け、

1 回の講習で約 500 名、1 日 2 回、全 6 回講習会を行った。

講習時間	教室	4/2(火)	4/3(水)	4/4(木)
11:00～ 12:00	4 共 11 (1F)	文学部 (220 人)	物理工学科 (235 人)	医学部(人間)・ 薬学部 (180 人)
	4 共 30 (3F)	経済学部 (240 人)	地球工学科・ 建築学科 (265 人)	理学部 (311 人)
14:00～ 15:00	4 共 11 (1F)	総合人間学部・ 教育学部 (180 人)	電気電子工学科・ 情報学科 (220 人)	医学部(医) (107 人)
	4 共 30 (3F)	法学部 (330 人)	工業化学科 (235 人)	農学部 (300 人)

4. 教育プログラム

1) 心肺蘇生トレーニングキット「あっぱくん[®]」(以下、あっぱくん[®])

あっぱくん[®](右写真)を学生 2 人で 1 個使用した。なお前日の 4 月 1 日(月)に、準備担当の教員があっぱくん[®]300 個をあらかじめ机の上に配置した。



2) 時間割

胸骨圧迫と AED の使い方を 1 人につき 1 体のトレーニングキットを用い、45 分間で多人数に対して指導を行う教育プログラムは、科学的検証を行い確立されている⁶。今回はこのプログラムに準じて講習を行った。

3) 教員の役割

① インストラクター

講習を運営しメインで指導を行うもの。各講習部屋につき 1 名、のべ 12 名を配置した。インストラクターは、あっぱくん[®]を使った講習を日ごろから実施し、心肺蘇生教育に慣れている学内教員とした。

② サブインストラクター

インストラクターが体調不良などで講習の運営を担えない場合、インストラクターとして指導および講習の運営を担うもの。

③ サポートスタッフ

学生 20 名につき約 1 名のサポートスタッフを配置した。サポートスタッフは、人間健康科学系専攻の全ての教員が担った。ただし人数が足りないため国際高等教育院の教員のうち、この講習に賛同してもらえる教員を募った。

④ 救急担当

初期診療・救急医学分野の教員は、講習中に体調不良を起こした学生の対応を行った。

⑤ 救護室／控室担当

講習中に体調不良を起こす学生を想定してあらかじめ救護室を準備した。体調不良を起こした学生がいた場合、救急部の医師と共にその対応を行った。

4) 手順書の作成と教員への事前説明

救命救急講習に携わる全ての教員に、この講習の理念、目的、方法を知ってもらうために手順書を作成した。救命救急講習の約 2 週間前、2024 年 3 月 21 日(木)の Faculty Development にて、全教員に手順書を用いて説明を行った。

5 年ぶりの対面講習であり教員の入れ替えがあり、半数近くの教員が初めてこの救命救急講習に参加することになった。そのため初めて参加する教員にもイメージしてもらいやすいように、図や写真を盛り込んだ手順書を作成した。

V. 結果

1. 講習への参およびアンケート提出状況

	学部・学科	入学者数	アンケート提出数	教員数
4月2日(火)				
11:00~12:00	文学部	224	212	19
	経済学部	250	198	15
14:00~15:00	総合人間学部	124	113	18
	教育	69	64	
	法学部	339	276	19
4月3日(水)				
11:00~12:00	物理工学科	243	181	19
	地球工	186	158	16
	建築学科	82	77	
14:00~15:00	電気電子工	133	125	20
	情報学科	93	86	
	工業化学科	243	200	15
4月4日(木)				
11:00~12:00	医学部(人間健康)	112	104	17
	薬学部	83	81	
	理学部	311	268	18
14:00~15:00	医学部(医学科)	112	108	14
	農学部	304	279	17
合計		2,908	2,530	207

2. 講習会の様子

1) 講習の様子

以下は、講習会の流れについて、写真等を用いて概要を説明する。

メッセージ ビデオ	- 講習会を始める前、心停止で子供を亡くされた親御さんたち、心停止から生還された方たち協力のもと作成した、約5分間のメッセージビデオを視聴し、なぜこの講習会を学んでもらいたいのか、動機づけを行った。 - 学生は、真剣にDVDを見ていた。	
--------------	---	--

胸骨圧迫の練習	・ 胸骨圧迫を行う胸骨の下半分の位置を自分の身体で確認 ・ 両手を前に出して手を組み、胸骨圧迫の準備 ・ 偶然隣に座った同級生と2人組になりあっぱくん®を使って胸骨圧迫の練習。止まってしまった心臓の代わりに血液や酸素を全身に送るためには、胸骨圧迫が不可欠と説明を受け、一生懸命練習。 ・ 強く、早く、絶え間なく、隣の学生が胸骨圧迫できているか評価して、応援していた。	  
AEDの使い方	・ AEDのパッドを、あっぱくん®に貼っている様子。	

まとめ	2023 年 4 月にこの講習を受けた学生が翌 5 月に、道端で心停止患者に遭遇して、救命処置を行い人命救助した事例を紹介した。 2024 年 2 月学内で心停止が発生し、AED が使用されたことを示し、学内でも心停止が起こることを知ってもらった。 - 学内外の AED の位置を検索したり、救命処置を復習できたりするコンテンツがはいったスマホのアプリ(救命サポーターアプリ team ASUKA⁷⁾)を紹介した。
------------	--

この講習を受けて人命救助をした先輩



2) 講習中に体調不良を起こした学生

6 回の講習中 7 人が気分不良で体調不良を起こし、救急部の医師らによって準備していた車いすで救護室に運ばれ、経過観察された。いずれも自律神経失調症の症状(冷汗、体の一部が震える、立ち眩み、気分不良、顔面蒼白など)で、救護室で横になりしばらく休んだ後、自力歩行でガイダンスの部屋に戻ったり帰宅したりした。

3) オンデマンド配信

講習当日、体調が悪い場合は無理に参加しないように周知した。欠席した者は後日、録画した講習を視聴できるようにし、全ての学生に対して学習の機会を担保した。

3. アンケート結果

講習の最後に、アンケート回答用の QR コードを記載したチラシを配布して回答するように伝えた。対面講習に参加した生および後日録画した講習を視聴した学生を合わせて、合計 2,530 人からアンケートの回答を得た(87.0%)。

1) 本学入学前における心停止(もしくはそれを疑う場面)遭遇経験

116 人(4.6%)の学生が、心停止(もしくはそれを疑う場面)の場面に遭遇していた。

2) 本学入学前の教育課程における、心肺蘇生および AED に関する教育歴

問 1. これまでに、心肺蘇生法や AED の使い方の講習会を受けたことがありますか？

	n=2,530	%
トレーニング人形を用い、 実技をとまなう実習形式の授業	1644	65.0
講義のみの授業	459	18.1
今回初めて心肺蘇生の授業を受けた	427	16.9

問 2. 今まで講習会を受けた方は、どこでその講習会を受けましたか？(重複回答)

	n=2,103	%
小学校	490	23.3
中学校	1,210	57.5
高等学校	1,354	64.4
運転免許取得時	44	2.1

3) 講習内容の理解度

問 3 心停止(もしくはそれを疑う事態)に遭遇した際、どのような救命行動をとればよいのか、今回の講習でその方法を理解することができましたか。

	n=2,530	%
よく理解できた	2,293	90.6
どちらかという理解できた	223	8.8
どちらとも言えない	13	0.5
どちらかという理解できなかった	1	0.0
理解できなかった	0	0.0

4) 今回の取り組みについて

問 4 入学前オリエンテーションで、今回のような心肺蘇生講習を行うことをどう思いますか。

	n=2,530	%
有意義だと思う	2,349	92.8
どちらかというと有意義だと思う	155	6.1
どちらとも言えない	22	0.9
どちらかというの意味がないと思う	3	0.1
意味がないと思う	1	0.0

問 5 これからも心肺蘇生の方法や AED の使い方を定期的に学びたいと思いますか？

	n=2,530	%
とても思う	1,529	60.4
どちらかという学びたいと思う	784	31.0
どちらとも言えない	175	6.9
どちらかという学びたいとは思わない	36	1.4
全く思わない	6	0.2

問 6 救命講習会を受けた感想(記載があった 1,122 名の自由記載のうち一部抜粋)

- ・ 心停止が身近なことであるという意識を持って生活していきたいです
- ・ 知識があれば、勇気を持って行動できると思いました。周りの人に助けを求めることも大切だと思いました。
- ・ 日本で心臓突然死によって亡くなられる方が年に7万人もいると聞いて驚いた。正直、今までは AED の重要性は理解しつつも、それを実際に使用しなければいけないという事実に対しては無関心だったので、心臓突然死への意識を高めるには非常に良い機会だった。
- ・ 初めに見た、心停止で亡くなってしまった方々の映像を見て、泣きそうになった。自分が助けられるようにしたいと強く思った。
- ・ AED の位置を覚えておきたいです。
- ・ とても分かりやすかったので、高校で講習を受けた時よりも、「今後現場に出会った時には実践できそうだ」と思うことができました。
- ・ 救命救急講習は今までにもかなりの回数受けてきたのですが、今回は復習できるいい機会でした。
- ・ 人の命を守る、ためになる講習でした。これからの生活で、活用する場面がないのが 1 番ですが、もしもの時は率先して講習での学びを活かしたいです。
- ・ 危険な状態の人を前にして人任せにせず積極的に行動したい
- ・ 今までで中学や高校で学習したときには、講義形式のみで自分で実践したことがなかったので、殆ど記憶に残らなかった。その反面、今回は実践的に学習することができたので印象に残り、

忘れづらいと思う。

- ・ 胸骨圧迫が意外にしんどかったです。協力してやりたいです。
- ・ 実習形式での講習会でありがたかったです。
- ・ アニメーションが独特で面白かったです。
- ・ 親族が心停止で亡くなっているの、メッセージビデオを見るのはとてもつらかったが、いざというときに適切な行動がとれるように今日学んだことを活かしたい。
- ・ 映像を見るだけでなく、実際にキットを用いて練習してみたことがとても有意義だったと思います。
- ・ 下宿生なので、自分が1人倒れた時や周りの人が倒れた時に、すぐに動けるよう心づもりをしたい。
- ・ 先輩京大生にも救助経験者がいると知ったので、救命活動を他人事と思わないようにしようと感じた。
- ・ AEDをつかうハードルが低くなったので良かったです
- ・ 引っ越したので家の近くのAEDの場所を知っておこうと思う
- ・ 暖かい雰囲気に入れ、有意義な講習だった。
- ・ 同級生とのコミュニケーションができたことが大変良かった。もちろん、心肺蘇生も学べ有意義な時間だった。
- ・ 先生が何人もいて声を掛けてくれたのが良かった。最初に見せてもらったビデオで心肺蘇生の重要性を理解したうえで講習を聞いたので取り組みやすかった。

Ⅶ. まとめ

2015年からこの取り組みを始め2024年で10年目を迎えた。この期間COVID-19の影響で2020年度と2022年度の2回が実施できなかったが、これまで約24,000人の学生が胸骨圧迫とAEDの使い方を学んでいる。学部を問わずすべての新入生を対象に継続して胸骨圧迫とAEDの使い方の実技指導している大学は国内外をみても例がなく、京都大学のユニークな取り組みの1つである。

アンケートでは90.6%の学生が、講習を受けることで心停止(もしくはそれを疑う事態)に遭遇した際、どのような救命行動をとればいいのか「よく理解」できたと回答しており、2023年度のオンラインでおこなった講習の時(70.6%)のそれよりも高い割合であった。また92.8%の学生が、心肺蘇生講習を「有意義だと思う」と回答しており、これも2023年度のそれ(65.4%)と比較すると高い割合を示していた。これからも心肺蘇生の方法やAEDの使い方を定期的に学びたいと思うかという質問に対しても、2024年度は60.4%の学生が「とても思う」と回答しており、2023年度の44.5%よりも多くの学生が高い学習意欲を示していた。対象集団が異なるので直接的な比較を行うことは難しいが2023年度よりも改善した要因には、オンラインから対面に講習の実施形式を戻したことだけではなく、講習を受けた学生(新入生にとっては先輩)が心停止患者を救命した事例を紹介したことで、この講習を学ぶ意義が「自分ゴト」として感じられたのではないかと考えている。また学内でAEDが使用された際の写真を示して、学内でもこのようなことが起きている事実を伝えたことも影響しているかもしれない。さらに学内含めAEDの場所を検索したり、習った胸骨圧迫やAEDの使い方を

復習できるコンテンツが入ったスマホ用アプリ(救命サポーターteam ASUKA)を紹介することで、学生の興味・関心をタイムリーに高めることができたのかもしれない。このようないくつかの要因によって、学生の理解や満足度が高まったのではないかと考える。今後も学生の意欲を高められるように、講習内容を検討していきたいと思う。

大学入学前に実技を伴う心肺蘇生の講習を受けていたものは、65.0%で2023年度とほぼ同じ傾向であった。この項目は講習を始めた2015年から継続して集計しており、講習を始めた2015年度と比べると増えてきているが(2015年度57.5%、2016年度60.4%、2017年度65.4%、2018年度66.9%、2019年度68.8%、2021年度73.2%、2023年度65.8%)、昨今は横ばい傾向である。2021年4月から中学校、2022年4月から高等学校において新学習指導要領に基づいた教育が開始されているため⁸、今後実技を伴う心肺蘇生の講習の経験を有している新入生の割合が増え、いずれは入学する全ての学生が、実技を伴う心肺蘇生の講習の経験をして入学してくることを期待している。特記すべきは、427名(17%)が、今回初めて心肺蘇生に関する教育を受けたと回答していることである。心停止は、いつ、どこで、だれにでも起こる可能性があるため、全ての人が胸骨圧迫やAEDの使い方を身に付けておかないと、心停止に陥った人を救命することができない。社会に出る最後の教育機関として、すべての学生が心肺蘇生に関する知識や実技を身につけて卒業することは、学生自身のみならず、本学、ひいては社会にとっても価値のある重要な取り組みだと考えている。また心肺蘇生のガイドラインは5年毎に改定されていること¹、繰り返し講習に参加することによって技術・知識が身につくことから、大学入学のタイミングで最新のガイドラインに基づいた方法を復習しておくことは必要だと考えている。

次年度以降も、救命救急講習 Project Team メンバーを中心に、国際高等教育院、医学研究科、人間・環境学研究科などの関連部局と密に連携を取り、継続してこの取り組みが行えるようにしていきたい。また、他大学でもこの取り組みが実施されるように、この講習のノウハウや意義、効果などを情報発信していきたい。

VII. 救命救急講習メンバー

2024年度新入生3000名へ救命救急講習の計画立案、運営、報告書作成、サポートスタッフ手順書作成は、以下に示す救命救急講習 Project TEAM メンバーおよび、人間健康科学系専攻の教員によって行った。

【救命救急講習(あっぱくん)Project TEAM】

チームリーダー	石見 拓	(医学研究科・予防医療学分野・教授)
サブリーダー	梁 楠	(医学研究科・人間健康科学系専攻・教授)
チームメンバー	大鶴 繁	(医学研究科・初期診療・救急医学分野・教授)
チームメンバー	金丸敏幸	(国際高等教育院・准教授)
チームメンバー	江川達郎	(人間・環境学研究科 認知・行動・健康科学講座・准教授)
チームメンバー	島本大也	(医学研究科・予防医療学分野・特定講師)
チームメンバー	浅瀬万里子	(医学研究科・人間健康科学系専攻・助教)
コーディネーター	西山知佳	(医学研究科・人間健康科学系専攻・准教授)

【救命救急講習(あっぱくん)WG メンバー】

- 田畑阿美 (医学研究科・人間健康科学系専攻・講師)
細川陸也 (医学研究科・人間健康科学系専攻・講師)
榛葉旭恒 (医学研究科・人間健康科学系専攻・助教)
金橋 徹 (医学研究科・人間健康科学系専攻・助教)
廣野哲也 (医学研究科・人間健康科学系専攻・特定助教)

VIII. 謝辞

今回の講習会を実施するにあたり、ご協力の下さりました国際高等教育院企画調整掛の皆様、人間健康科学系専攻教務掛の皆様、情報環境機構 情報環境支援センターの皆様には厚く御礼申し上げます。

IX. 参考文献

1. JRC 蘇生ガイドライン 2020、一般社団法人 日本蘇生協議会(監修)、医学書院、2021 年
2. 西山知佳、馬場正昭、黒木裕士、佐藤隆平、川村孝、小池薫、田中真介、内藤知佐子、石見拓. 国立総合大学全新生を対象にした胸骨圧迫・AED 使用法教育. 日本臨床救急医学会誌, 2017;20:682-688
3. 京都大学. 基本理念. <https://www.kyoto-u.ac.jp/ja/about/operation/ideals/basic> (最終アクセス 2024 年 5 月 6 日)
4. Nishiyama C, Sato R, Baba M, Kuroki H, Kawamura T, Kiguchi T, Kobayashi D, Shimamoto T, Koike K, Tanaka S, Naito C, Iwami T. Actual resuscitation actions after the training of chest compression-only CPR and AED use among new university students. Resuscitation. 2019;141:63-68.
5. 京都大学. ザッツ京大. <https://www.thats.pr.kyoto-u.ac.jp/2023/12/27/14027/> (最終アクセス 2024 年 5 月 6 日)
6. Nishiyama C, Iwami T, Kitamura T, Ando M, Sakamoto T, Marukawa S, Kawamura T. Long-term retention of cardiopulmonary resuscitation skills after shortened chest compression-only cardiopulmonary resuscitation training and conventional cardiopulmonary resuscitation training: a randomized controlled trial. Acad Emerg Med. 2014; 21: 47-54.
7. 公益財団法人 日本 AED 財団. 救命サポーター「team AUSKA」. <https://aed-zaidan.jp/project/index.html> (最終アクセス 2024 年 5 月 24 日)
8. 文部科学省. 平成 29・30 年改訂 学習指導要領、解説等 (https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1384661.htm) (最終アクセス 2024 年 5 月 6 日)

2024 年度

新入生 3000 名への救命救急講習

サポートスタッフ手順書



2024/03/04

Ver. 2

救命救急講習 Project TEAM 作成

目 次

I. 救命救急講習の理念	1
II. 救命救急講習の目的	1
III. 救命救急講習実施の概要	1
IV. 場所・日程・学生部屋割り	1-3
V. あっぱくん [®] について	3
VI. 役割	3
VII. 役割 3、6、7 の内容と当日の流れ	4-6
VIII. 体調不良、怪我など	7
IX. 地震・火災等避難方法	7
X. 4 月 1 日に着任される先生方および、その先生方をサポートして下さる先生へ	7
XI. 当日の緊急連絡先	7
XII. 救命救急講習時間割	8
XIII. サポートスタッフ担当表	9-11
XIV. 教室ごとのサポートスタッフ配置図	12-23
XV. 教室ごとのあっぱくん配置図	24-25
XVI. 吉田南 4 号館避難経路図	26

I. 救命救急講習の理念

新入生に心身の健康と命の大切さを感じ取ってもらうことを目的とした講習です。新入生は、2人1組のペアをつくって協力しあいながら、心肺蘇生の中でも一番大事な胸骨圧迫とAEDの使い方の手技を心肺蘇生のトレーニングキット「あっぱくん®」を使って学びます。

この講習では、心肺蘇生のスキルを教えるだけでなく、自分や周りの人の命の大切さを考えるきっかけを与えることを目的にしています。また、1回生同士のペアや、サポートスタッフの教員と対話しながら心肺蘇生を学ぶことによって、社会や仲間の中での自己信頼性と自己肯定性、自己有用性を高めていけるよう配慮したいと思います。

II. 救命救急講習の目的

1. 心肺蘇生を実施しAEDを使用することで、救えるいのちがあることを知り、いのちの尊さを知ることができる。
2. 心停止の現場に居合わせた際に、直ちに119番通報を行い、迅速に胸骨圧迫を実施し、AEDを使用するという救命処置の流れを理解することができる。
3. 同級生やサポートスタッフとコミュニケーションをとることができる。

III. 救命救急講習実施の概要

新入生ガイダンスの一貫として、学生は健康診断と救命救急講習を同日に受ける予定です。2024年4月2日(火)、4月3日(水)、4月4日(木)、各日午前と午後1時間の講習を行います。1回の講習で約500名を対象としていますが、500名を一堂に収容できる教室はありませんので2部屋に分けて行います。1日2回、全6回行うことで新入生約3000人に指導を行います。

IV. 場所・日程・学生部屋割り

1. 場所

吉田南4号館(地図番号92)

事前打ち合わせ場所: 吉田南4共14(1F)

講習実施教室: 4共11(1F)および4共30(3F)



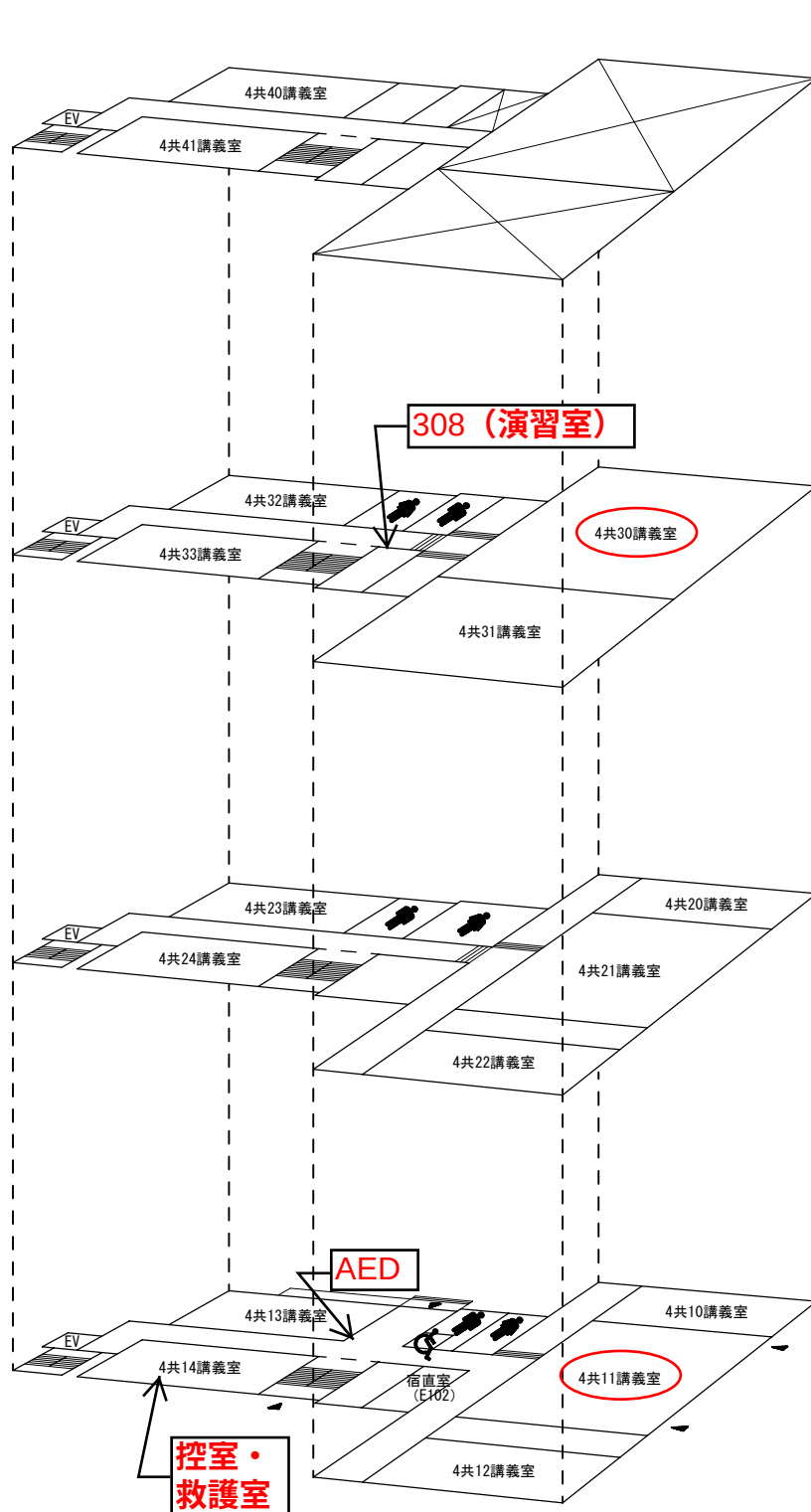
吉田南 4 号館

4 階

3 階

2 階

1 階



2. 日程・学生部屋割り

講習開始 20 分前に、集合場所の吉田南 4 共 14 の部屋へ集合して下さい。

集合 時間	集合 場所	講習 時間	教室	4/2(火)	4/3(水)	4/4(木)
10:40	4 共 14 (1F)	11:00 ～ 12:00	4 共 11 (1F)	文学部 (220 人)	物理工学科 (235 人)	医学部(人間)・ 薬学部 (180 人)
			4 共 30 (3F)	経済学部 (240 人)	地球工学科・ 建築学科 (265 人)	理学部 (311 人)
13:40		14:00 ～ 15:00	4 共 11 (1F)	総合人間学部・ 教育学部 (180 人)	電気電子工学科・ 情報学科 (220 人)	医学部(医) (107 人)
			4 共 30 (3F)	法学部 (330 人)	工業化学科 (235 人)	農学部 (300 人)

V. あっぱくん®について

今回は心肺蘇生のトレーニングキット「あっぱくん®」を 2 人で 1 個 (座席数が奇数のところについては、1 人 1 個の箇所もあり)使います(右写真)。あっぱくん®は、あらかじめ机の上に置いています。



VI. 役割

1. インストラクター

講習の指導および運営を担う。

2. サブインストラクター

インストラクターが体調不良等で講習の運営を担えない場合、インストラクターをつとめる。

3. サポートスタッフ

指定された部屋の担当エリアにいる学生約 20 名を受け持ち、学生がインストラクターの指示に従って講習に参加できるようにサポートする。詳細は次ページの説明を参照のこと。

4. 救急部

担当教室は決めず、講習中 2 つの教室を往復し、体調不良者が出てないか確認する。

5. 救護室／控室

講習中、4 共 14 の部屋で待機する。万が一、体調不良の学生が出た場合は、救急部の教員と共に対応に当たる。

6. インストラクター補助

講習中、インストラクターのサポートを行う。

7. 誘導係

教室に入ってきた学生にマスク着用の協力依頼し、座席に誘導を行う。

VII. 役割 3、6、7 の内容と当日の流れ

3. サポートスタッフ

講習の進み方は、スライドに流れる映像を見た後、一旦映像を止めてみんなで実技を行います。約 20 名の担当学生を受け持ち(担当表 page9-11 参照)、下記の内容を行って下さい。

- ①DVD の流れについて実技ができているかどうかを見守り、励ましの言葉をかけて下さい
(例:時々DVD をちゃんと見ておらず、何をしたらいいかわからなくなっている)
- ②DVD と異なることをしていたら、声を掛けてサポートして下さい
(例:AED のパッドを貼る位置が左右逆。あっぱくん[®]の置く向きが違う。)
- ③胸骨圧迫の練習の際、手の組み方、ひじが曲がっていないか、ハートの真ん中が押せているか確認して「いいね!」「その調子」「がんばれ!」など声掛けをしてください
- ④あっぱくん[®]から音が鳴らなくてももしっかり押せていると思われたら、「大丈夫。押せている」と言っておいて下さい。机の高さと身長が合わず力が入りにくい学生がいると思います(特に小柄な学生)。できる範囲で胸骨圧迫の練習をしてもらって下さい。
- ⑤DVD についていけない新生が入った場合、インストラクターに伝えて下さい。学生数が多い場合インストラクターは細部まで目が行き届かない場合があります。
- ⑥DVD の映像を見る時以外は、担当する新生に積極的に声を掛けて下さい。
- ⑦気分が悪くなっているような学生がいなければ様子を見て下さい。気分悪そうな学生がいたら、中断させ、インストラクター補助の教員や巡回している救急部の医師に声をかけて下さい。
- ⑧講習会中盤で、2 人一組になって胸骨圧迫の交代の練習をする場面があります。ここがサポートスタッフの一番必要なところ。左右でペアがいなくて一人になっている学生がいいるか?(奇数の座席数は前後で)うまく 2 人一組になるように誘導して下さい。2 人組になれない場合は、その学生とペアになって下さい。一人ぼっちになると寂しいです。
- ⑨4/4(木)14:00-15:00 の講習のみ
担当した学生のあっぱくん[®]を集め、教室の後ろまたは前にあるあっぱくん[®]の回収 BOX へ入れて下さい。その後、あっぱくん[®]を 3F308(演習室)まで運搬しますので、WG メンバーの先生と一緒に運搬をお願いします。

時間		項目	場所・備考
10:40	13:40	控え室集合	4 共 14(1F)
10:40-10:50	13:40-13:50	説明	全体説明
10:50-11:00	13:50-14:00	各部屋に移動	4 共 11(1F)、4 共 30(3F)
11:00-12:00	14:00-15:00	救命救急講習	最終の講習会以外は終了後、インストラクターの退室指示のもとに流れ解散。
	15:00-15:20	4/4(木)14:00-15:00 のみあっぱくん [®] 回収 および後片付け	WG の教員と一緒にあっぱくん [®] を 3F308(演習室)へ運搬し片付け。その後、流れ解散。

6. インストラクター補助

1) 講習前

- ・ **午前の部は 10:30、午後の部は 13:30** に吉田南 4 共 14 の部屋にお越し下さい。
- ・ 担当教室の教員の出欠確認を行い、全体説明開始時間までに西山にメンバーがそろっているか否かお伝えください。

2) 講習中

①インストラクターのサポート

- ・ 冒頭のメッセージビデオ上映の際には、全ての電気を消して下さい。
- ・ メッセージビデオが終わった後は、映像が見やすいように部屋の電気の調整をして下さい。
- ・ 胸骨圧迫や AED の説明の際には、インストラクターの声掛けに従って必要時インストラクターのサポートをして下さい。

②全体の見守り

- ・ 何か困っていることがないか見渡し、学生のサポートをして下さい。
- ・ 体調不良者が出た場合は、救急部の医師や救護室担当教員を呼びに行き対応して下さい。

3) 講習後

- ・ アンケート等を記載した A4 の資料を配布して下さい。
- ・ 次の講習用に、あっぱくん[®]を定位置にセットして下さい(別紙「あっぱくん配置」参照)。
- ・ 4/4(木)14:00-15:00 の最終講義後、サポートスタッフの教員と協力してあっぱくん[®]を 3F308(演習室)へ運搬して片づけて下さい。
- ・ 講習会が終わったあと、インストラクターはサポートスタッフの教員へ部屋から退室するように声をかけます。サポートスタッフが退室した後に、1-2 分、生協の説明があります。なお説明を担当する生協学生スタッフ(黄色パーカー着用)が、講習終了時間を目安に部屋に入ってきて待機しています。黄色パーカー着用の学生は、資料配布やあっぱくん[®]を定位置に戻す作業、最終日のあっぱくん[®]運搬などいろいろ手伝ってもらえますので、必要時に声をかけて下さい。

4) 任務終了のタイミング

- ・ 次回の講習用にあっぱくん[®]を定位置し、忘れ物がないかどうか確認できたら任務終了です。午前の講習はおおよそ 12:20、午後の講習はおおよそ 15:20 までに終わる見込みです。ただし最終日 4/4(木)午後はあっぱくん[®]の片付けがあるので 15:30 ぐらいを見込んでいます。

7. 誘導係

- ・ **午前の部は 10:30、午後の部は 13:30** に吉田南 4 共 14 の部屋にお越し下さい。マスクをしてない学生に渡すための予備マスクをお渡しします。

1) マスク

- ・ 担当教室に向かい、学生の着席誘導、マスク着用の声かけをして下さい。
- ・ マスクを持ってない学生には予備マスクを渡して下さい。なお新入生には、新入生向けガイダンスの HP にて、以下のように事前にマスク着用の協力を行っています。

＜学生に HP で事前周知している内容: 抜粋＞

- 1) 本講習では 1 つの教室に多くの学生が集まること、また病院に出入りする教員もインストラクターとして参加するため、感染予防としてマスク着用にご協力をお願いします。
- 2) 「心肺蘇生トレーニングキットあっぱくん[®]」を使います。会場入口での手指のアルコール消毒にご協力をお願いします。
- 3) 当日風邪の症状などの体調不良がある場合は、無理せず自宅で静養してください。ガイダンス終了後に PandA 上で録画された教材をアップロードし、胸骨圧迫と AED の使い方を学ぶ機会を設けます。視聴方法等の詳細は準備ができ次第、別途お知らせします。

2) 座席

- ・ いずれの部屋も先頭列は可動式の机のため、安全性を考慮して使用しないようにしています。来た人から順に前から詰めて座るように声をかけて下さい。
- ・ 特に、4 月 2 日(火)午後、4 月 4 日(木)午前、午後の 4 共 30 の部屋は、全員参加すると 300 人超えになるため、出来るだけ前から座るように声をかけて下さい。
- ・ 時々部屋の外の様子も見てください。迷っている学生がいれば、中に入るように声をかけてあげてください。

3) 任務終了のタイミング

- ・ インストラクターや担当の教員が入ってきたら、任務終了です。お疲れ様でした。

VIII. 体調不良、怪我など

1. 4 共 14(1F)は、スタッフの控室兼、救命講習中の救護室にしており、応急手当物品、担架、車いすを準備しています。また控室には看護の教員が 1 名待機しています。
2. 救急部の医師が 2 部屋を巡回しています。何かあれば救急部の医師へ声をかけて下さい。
3. 慣れない環境で緊張しながら講習を受けています。講習中、もし気分が悪い学生が出ましたら、無理に講習を継続させる必要はありません。疲れる学生も出るかもしれません。そのような場合は、座席で休むように伝えたり、その学生のみ講習を中断させて 4 共 14(1F)へ誘導していただいても結構です。
4. 講習会中盤に、2 人 1 組になって胸骨圧迫の交代の練習をする場面がありますが、ここで学生同士がぶつかる可能性があります。インストラクターが移動の向きを指示しますが、万が一けがをした場合は、その学生のみ講習会を中断させて 4 共 14(1F)へ誘導して下さい。

IX. 地震・火災等避難方法

万が一、講習会中に地震・火災等の緊急事態が行った場合は、インストラクターの指示に従い各部屋の非常口(4 共 31 は東側(窓側))から避難するよう学生を誘導して下さい。各部屋の配置図に赤字で「非常口」と記載しております。「吉田南 4 号館避難経路図」を参照してください。

X. 4 月 1 日に着任される先生方および、その先生方をサポートして下さる先生へ

1. 4 月 1 日に着任される先生方へ

新入生を対象にした救命救急講習は、人間健康科学系専攻が全学部学生に提供する授業科目の 1 つとしてみなされており(4 単位分)、全教員が参加する重要な行事に位置付けられています。ご着任されたばかりで、慣れない環境で大変な時期だと思いますが、ご協力の程よろしくお願い申し上げます。「Ⅶ. 役割毎の分担内容と当日の流れ」の「3. サポートスタッフ」の項目を予めご一読下さい。

2. 4 月 1 日に着任される先生方をサポートして下さる先生方へ

新たに着任される先生と同じ講座や同じ分野の先生方は、新任の先生方へお声かけの上、吉田南 4 共までお越しください。また講習会場では、同じ教室担当の先生方も積極的に声をかけていただき、新任の先生方の不安を是非和らげて下さい。

もし、講習後に新任の先生から質問やご相談がありましたら、対応していただきますようお願いいたします。内容によっては、梁や西山へご連絡いただければ対応致します。

XI. 当日の緊急連絡先

2024年度 新入生への救命救急講習

場所: 吉田南4号館 (4共11、4共30)

日時: 2024年4月2日(火)～4日(木) 11:00-12:00または14:00-15:00

目標

- 1. 命の大切さ、尊さを考える。
- 2. 第一救助者の重要性を理解する。
- 3. 胸骨圧迫とAEDの意義とその方法を理解する。

 特に気に掛けていただきたい項目

	時刻			項目		お願い
導入	11:00	～	11:05			・あいさつ ・人間健康の教員紹介 ・写真撮影の説明
	11:05	～	11:16	メッセージビデオ		・動機づけのためのメッセージビデオを見ます。 ・メッセージビデオ後、あっぱくんの蓋を開けてもらいます。蓋が開かない学生がいたらサポートをお願いします。
展開	11:16	～	11:19	第一話		手首で脈の確認をしますが、見つけれない学生がいたらサポートをお願いします。
	11:19	～	11:19			集中してない学生がいたら、続きのDVDを見るように促して下さい。
	11:19	～	11:21	第二話		声を出すことを恥しがるかもしめませんので、先生方も一緒に声を出して下さい。
	11:21	～	11:23			あっぱくんの胸(ハートの辺り)や、お腹辺りを見ているか確認してください。
	11:23	～	11:24			左右どちらが上でもいいので、手が組めているか確認してください。
	11:24	～	11:28			胸骨圧迫を1人30秒体験します。 30秒経ったら、合図を出しますのであっぱくんを隣の人に渡します。
	11:28	～	11:29			胸骨圧迫の交代の方法をDVDで見ます。
	11:29	～	11:36			2人1組になれているか確認してください。 30秒経ったら合図をしますので、学生同士声を掛けあって胸骨圧迫の交代をします。注)あっぱくんを移動させず、人が移動するようにして下さい。
	11:36	～	11:40	第三話		自分の体でAEDパットを貼る位置を確認しますが、逆になってないか確認してください。
	11:40	～	11:42			AEDの音声を聞いてみます。 模擬AEDの電気ショックボタンを押します。
	11:42	～	11:43			DVDを見ます。
まとめ	11:43	～	12:00	まとめ		学内のAED設置場所の説明とまとめ

2024年度 新入生3000人救命救急講習サポートスタッフ配置

日程	2024/4/1(月)	2024/4/2(火)			
講習時間	10:00-12:00	11:00-12:00		14:00-15:00	
学部(学科)	準備	文学部	経済学部	総合人間学部 教育学部	法学部
部屋	梁 楠 西山知佳 浅瀬万里子 田畑阿美 江川達郎 島本大也 金丸敏幸 廣野哲也 金橋徹 榛葉旭恒 細川陸也	4共11(1F)	4共30(3F)	4共11(1F)	4共30(3F)
インストラクター		島本大也	石見 拓	浅瀬万里子	江川達郎
サブインストラクター		浅瀬万里子	江川達郎	島本大也	西山知佳
カメラ係		金丸敏幸			
救急部		山崎一幸		山崎一幸	
救護室／控室		ドーリング 景子		阿久澤 智恵子	
全体統括 トラブル対応		梁 楠 ・ 西山 知佳			
学生人数		220	240	180	330
誘導係 (各部屋1名)		鳥井 美江	林 和寛	田畑 阿美	廣野 哲也
インストラクター補助 (WG)		榛葉 旭恒	廣野 哲也	榛葉 旭恒	金橋 徹
サポートスタッフ		① 石津 浩一	① 竹之内 沙弥香	① 笹山 哲	① 木下 彩栄
		② 大滝 千文	② 常田 裕子	② 御手洗 彰	② 古田 真里枝
		③ 阿久澤 智恵子	③ 山之内 智子	③ 杉山 雅人(国際)	③ 大滝 千文
		④ 小島 諒介	④ 近田 藍	④ 舟橋 春彦(国際)	④ 高桑 徹也
		⑤ 白井 由紀	⑤ 黒田 貴子	⑤ 任 和子	⑤ 澤本 伸克
		⑥ 清川 加奈子	⑥ 三井 督子	⑥ 石川 恵子	⑥ 藤井 康友
		⑦ 伊吹 謙太郎	⑦ 喜多 一(国際)	⑦ 中尾 恵	⑦ 市橋 則明
		⑧ 松尾 英将	⑧ 伊藤 明良	⑧ 建内 宏重	⑧ 小方 智広
		⑨ 林 美穂子	⑨ 和泉 絵美(国際)	⑨ 若村 智子	⑨ 伊藤 明良
		⑩ 谷口 匡史	⑩ 西中 瑠子		⑩ 林 和寛
			⑪ 入江 啓輔		⑪ 稲富 宏之
					⑫ 緑川 光春
					⑬ 常田 裕子
					⑭ 草野 佑介
					⑮ 兼重 美希
		※新任教員は斜体表示			
予備教員		中 村 光 宏 森 瀬 譲 二		中 村 光 宏 森 瀬 譲 二	

2024年度 新入生3000人救命救急講習サポートスタッフ配置

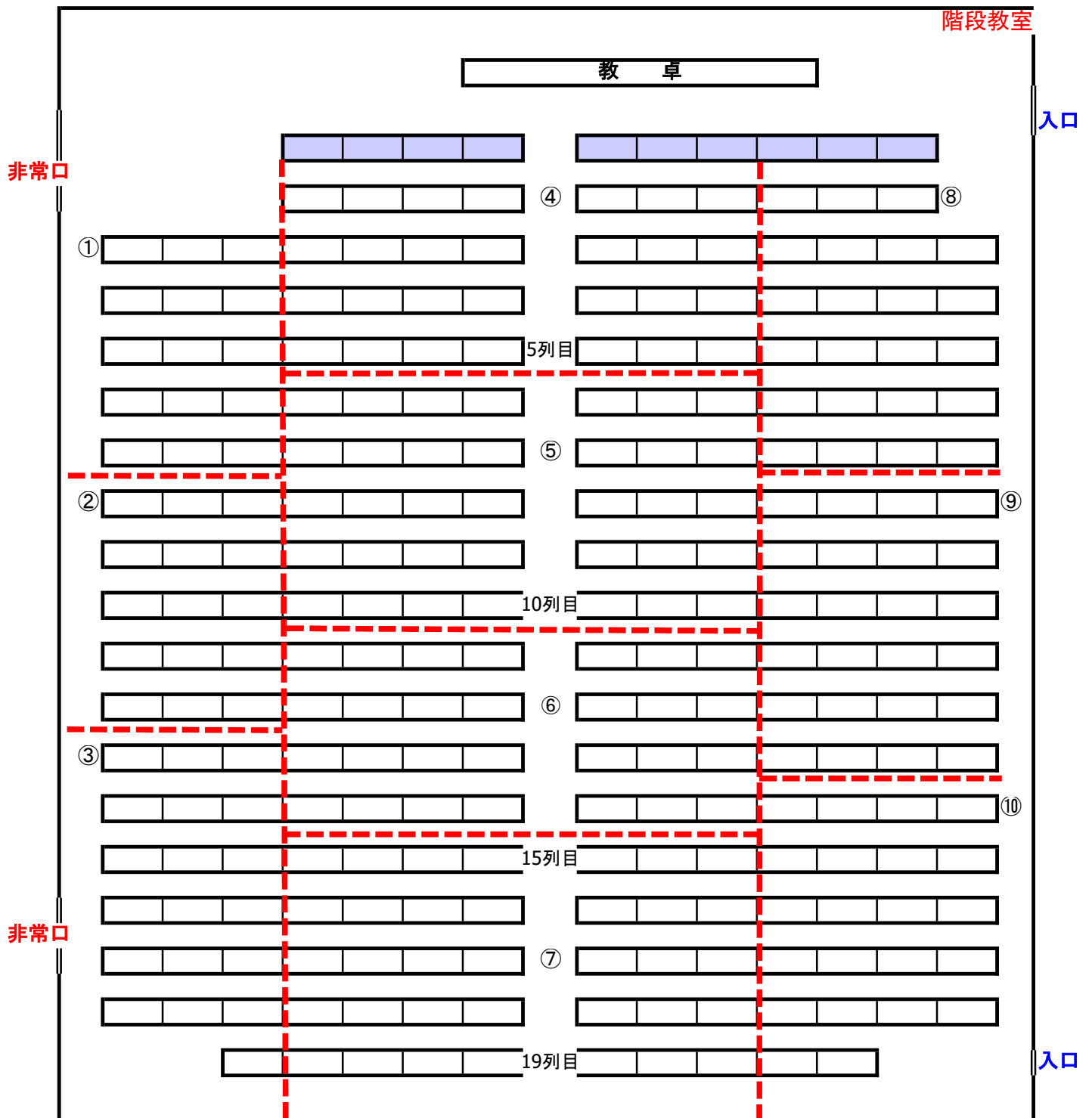
日程	2024/4/3(水)			
講習時間	11:00-12:00		14:00-15:00	
学部(学科)	物工	地球 建築	電気 情報	工化
部屋	4共11(1F)	4共30(3F)	4共11(1F)	4共30(3F)
インストラクター	江川達郎	石見 拓	浅瀬万里子	島本大也
サブインストラクター	浅瀬万里子	島本大也	西山知佳	金丸敏幸
カメラ係	金丸敏幸			
救急部救護	柚木知之		柚木知之	
救護室／控室	竹之内 沙弥香		常田 裕子	
全体統括 トラブル対応	梁 楠 ・ 西山 知佳			
学生人数	235	265	220	235
誘導係 (各部屋1名)	小方 智広	清川 加奈子	平 和也	兼重 美希
インストラクター補助 (WG)	田畑 阿美	廣野 哲也	細川 陸也	榛葉 旭恒
サポートスタッフ	① 白井 由紀	① 和泉 絵美(国際)	① 木下 彩栄	① 若村 智子
	② 平 和也	② 榊 由里	② 宮下 美香	② 野中 元裕
	③ 塩見 美抄	③ ANAGNOSTOU Despoina	③ 塩見 美抄	③ ANAGNOSTOU Despoina
	④ 山之内 智子	④ ドーリング 景子	④ 近田 藍	④ 鳥井 美江
	⑤ 森西 可菜子	⑤ 笹山 哲	⑤ 和泉 絵美(国際)	⑤ 森西 可菜子
	⑥ 伊吹 謙太郎	⑥ 御手洗 彰	⑥ 杉本 直三	⑥ 高桑 徹也
	⑦ PATAKY Todd	⑦ 岡本 雅子(国際)	⑦ 藤井 康友	⑦ 御手洗 彰
	⑧ 伊 藤 明 良	⑧ 建内 宏重	⑧ 錦 織 桃 子	⑧ 建内 宏重
	⑨ 義村 さや香	⑨ 林 和 寛	⑨ 山口 智史	⑨ 松尾 英将
	⑩ 小島 諒介	⑩ 入江 啓輔	⑩ 市橋 則明	⑩ 山田 重人
		⑪ 杉山 雅人(国際)	⑪ 小方 智広	⑪ PATAKY Todd
		⑫ 石津 浩一		
※新任教員は斜体表示				
予備教員	中 村 光 宏 森瀬 譲 二		中 村 光 宏 森瀬 譲 二	

2024年度 新入生3000人救命救急講習サポートスタッフ配置

日程	2024/4/4(木)			
講習時間	11:00-12:00		14:00-15:00	
学部(学科)	医学部(人間) 薬学部	理学部	医学部(医)	農学部
部屋	4共11(1F)	4共30(3F)	4共11(1F)	4共30(3F)
インストラクター	浅瀬万里子	石見 拓	江川達郎	島本大也
サブインストラクター	島本大也	江川達郎	西山知佳	浅瀬万里子
カメラ係	金丸敏幸			
救急部救護	南卓馬		南卓馬	
救護室／控室	近田 藍		島井 美江	
全体統括 トラブル対応	梁 楠 ・ 西山 知佳			
学生人数	180	311	107	300
誘導係 (各部屋1名)	金橋 徹	森西 可菜子	西中 瑤子	谷口 匡史
インストラクター補助 (WG)	細川 陸也	田畑 阿美	細川 陸也	金橋 徹
サポートスタッフ	① 白井 由紀	① 竹之内 沙弥香	① 任 和子	① 塚原 信行(国際)
	② 西中 瑤子	② 阿久澤 智恵子	② 宮下 美香	② 古田 真里枝
	③ 塩見 美抄	③ 山之内 智子	③ 澤本 伸克	③ ANAGNOSTOU Despoina
	④ 入江 啓輔	④ ドーリング 景子	④ 野中 元裕	④ 杉本 直三
	⑤ 清川 加奈子	⑤ 伊吹 謙太郎	⑤ 平 和也	⑤ 錦 織 桃 子
	⑥ 林 美穂子	⑥ 中尾 恵		⑥ 笹山 哲
	⑦ 義村 さや香	⑦ 谷 口 匡史		⑦ 林 美穂子
	⑧ 兼重 美希	⑧ 岡本 雅子(国際)		⑧ 山田 重人
		⑨ 大滝 千文		⑨ 山口 智史
		⑩ 石津 浩一		⑩ PATAKY Todd
		⑪ 喜多 一(国際)		⑪ 義村 さや香
		⑫ 小島 諒介		⑫ 稲富 宏之
		⑬ 松尾 英将		⑬ 緑川 光春
		⑭ 杉山 雅人(国際)		
	※新任教員は斜体表示			
予備教員	中 村 光 宏 森瀬 譲 二		中 村 光 宏 森瀬 譲 二	

4/2(火) 11:00-12:00
4共11

予定学生人数 220人(教室最大定員 250人)



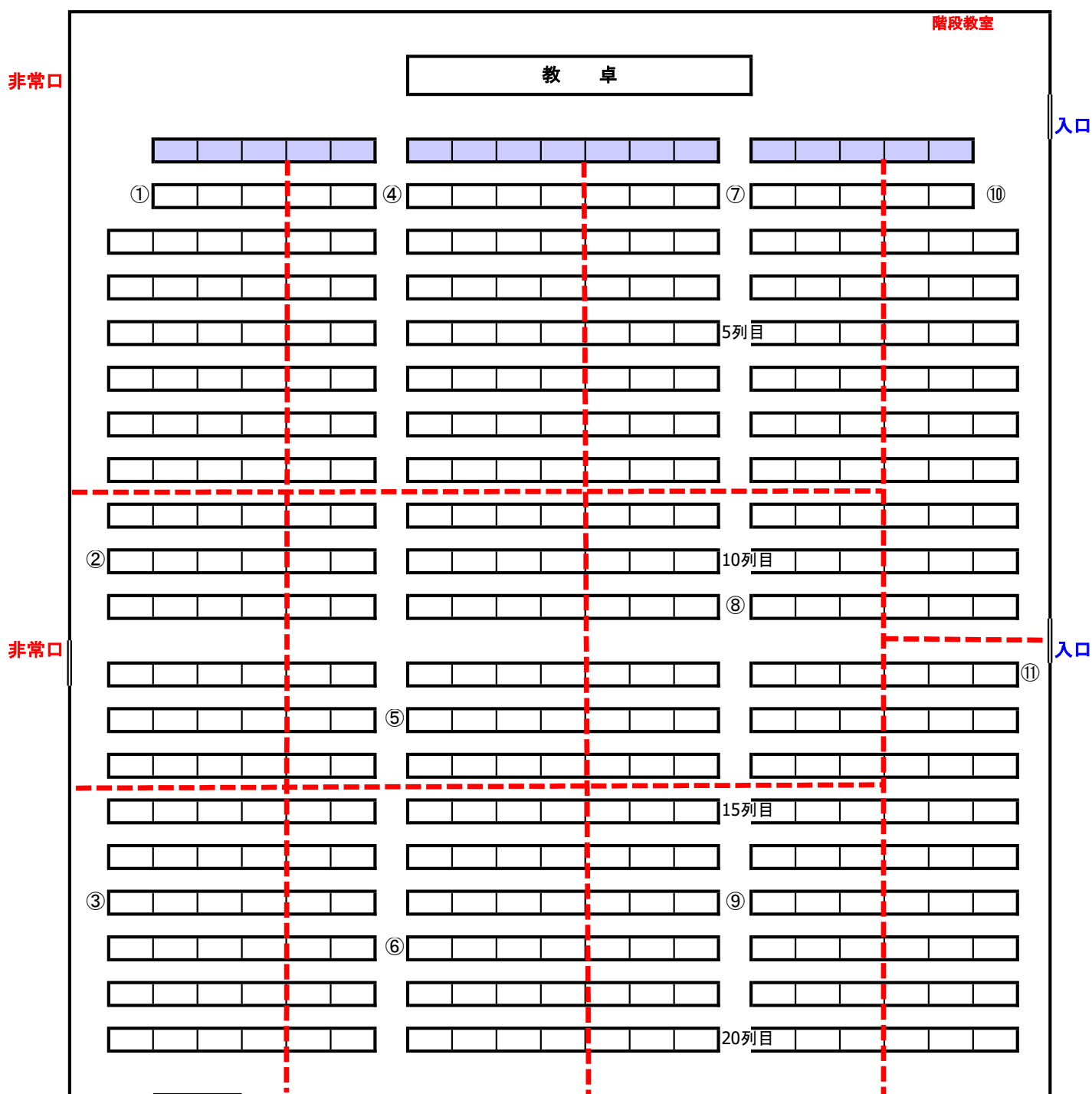
○に囲まれた数字は、サポートスタッフ番号を意味し、担当していただく机の範囲を赤の破線で示しています。
数字は、机の列番号を意味しています。

：可動机は使用しない。

4/2 (火) 11:00-12:00

4共30

予定学生人数 240人(教室最大定員 376人)



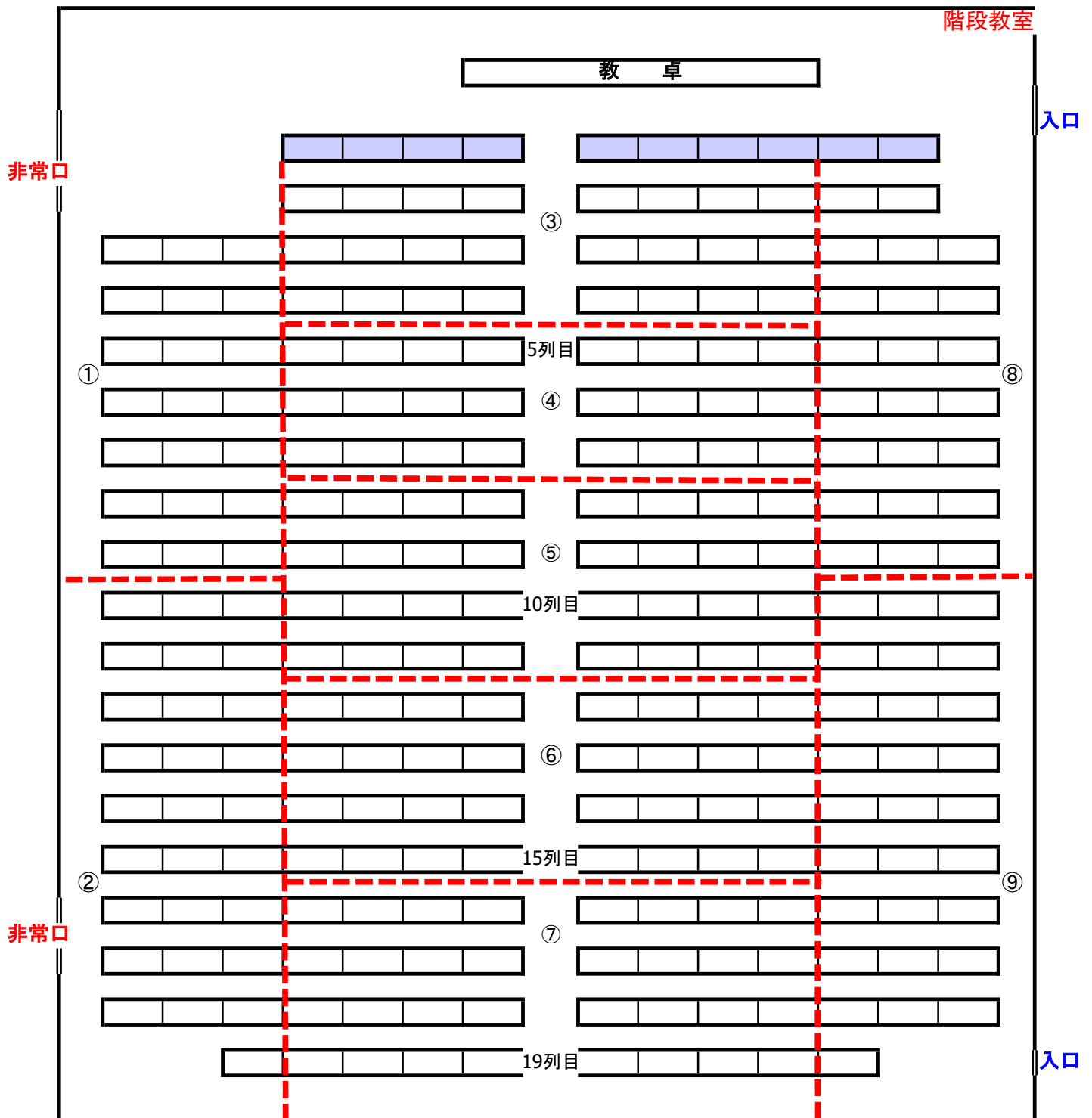
○に囲まれた数字は、サポートスタッフ番号を意味し、担当していただく機の範囲を赤の破線で示しています。
数字は、机の列番号を意味しています。

□: 可動機は使用しない。

4/2 (火) 14:00-15:00

4共11

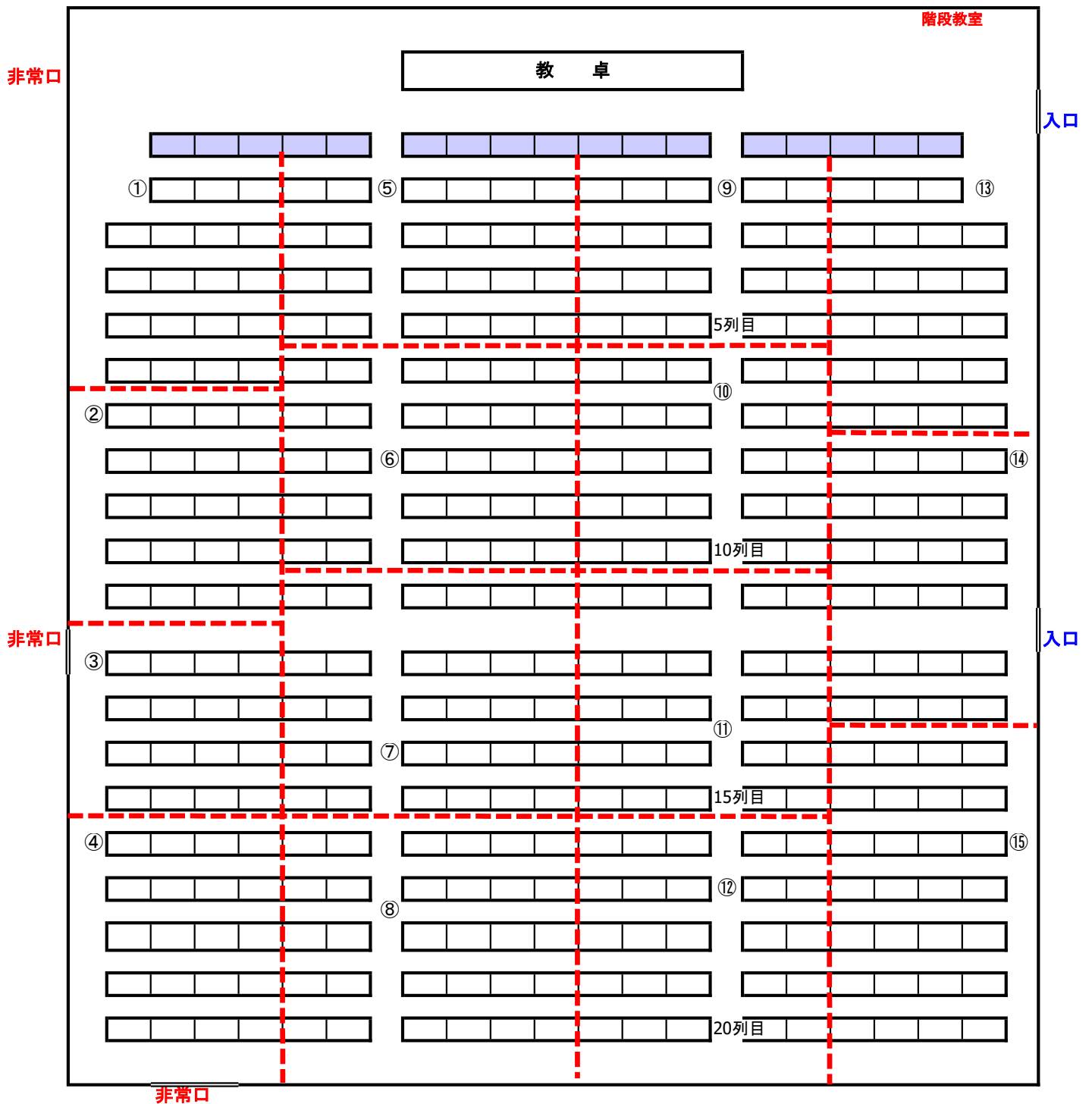
予定学生人数 180人(教室最大定員 250人)



○に囲まれた数字は、サポートスタッフ番号を意味し、担当していただく机の範囲を赤の破線で示しています。
数字は、机の列番号を意味しています。

■:可動机は使用しない。

予定学生人数 **330人**(教室最大定員 **376人**)

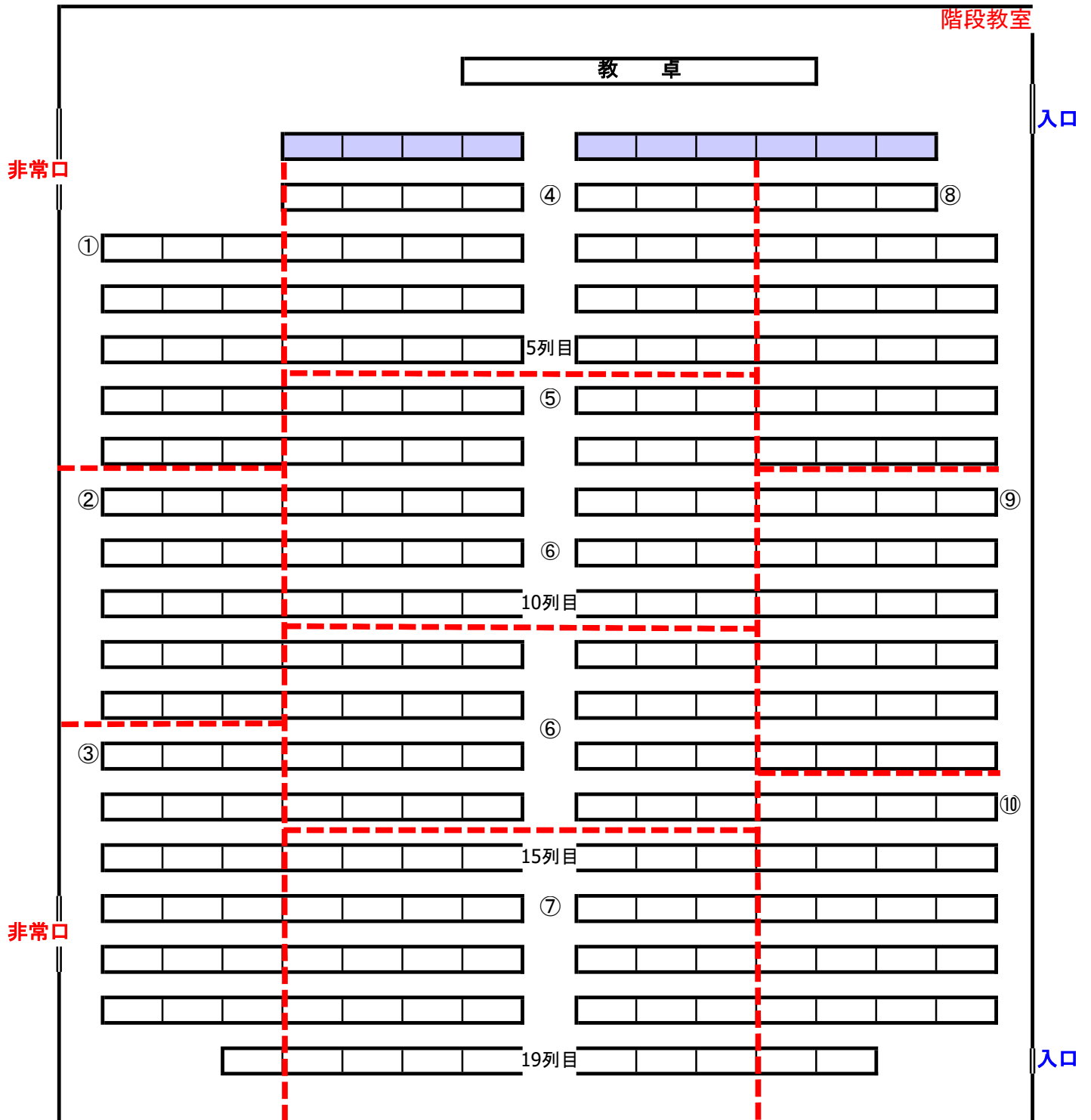


○に囲まれた数字は、サポートスタッフ番号を意味し、担当していただく機の範囲を赤の破線で示しています。
数字は、機の列番号を意味しています。
□ : 可動機は使用しない。

4/3 (水) 11:00-12:00

4共11

予定学生人数 235人(教室最大定員 250人)



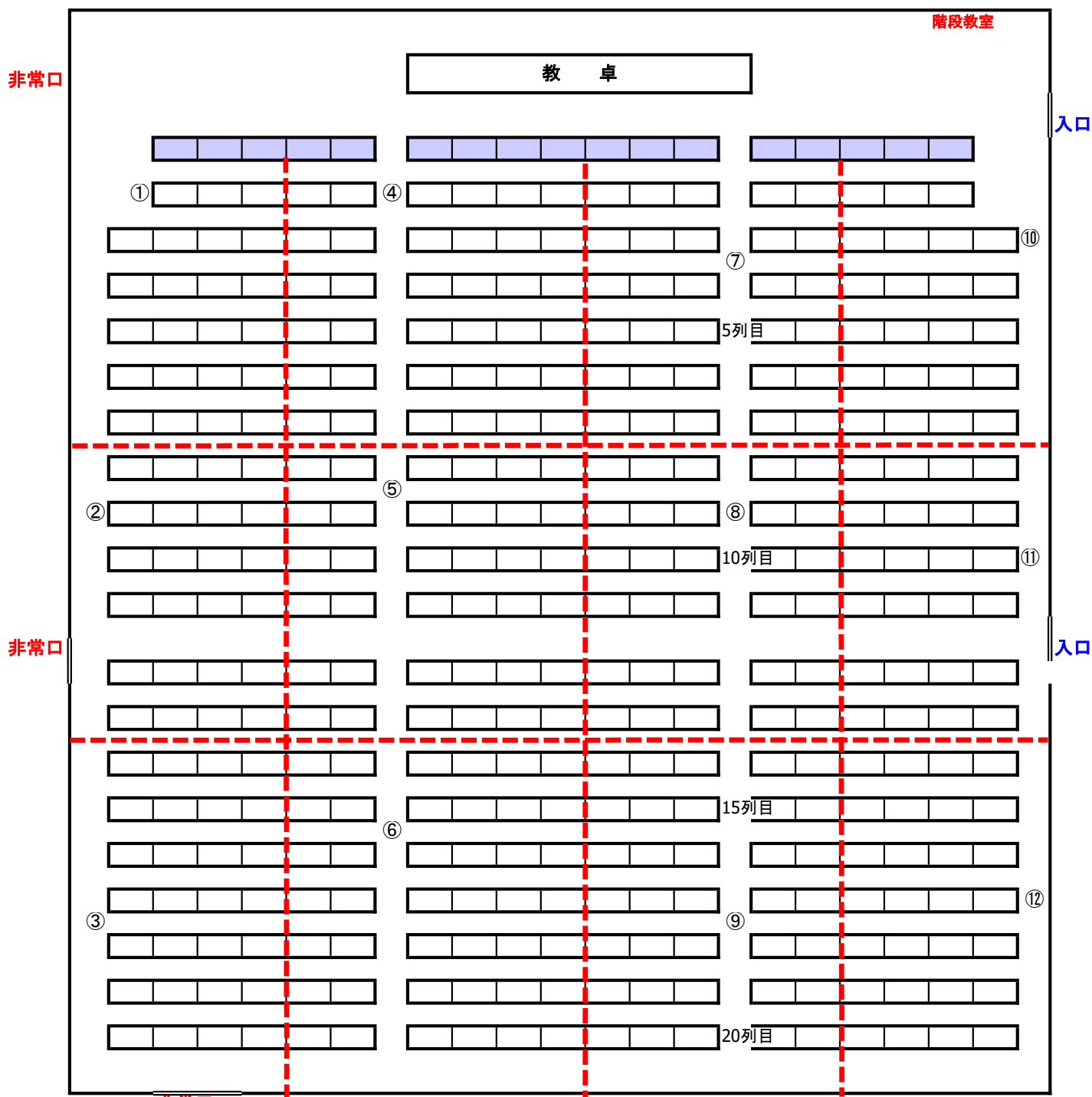
○に囲まれた数字は、サポートスタッフ番号を意味し、担当していただく机の範囲を赤の破線で示しています。
数字は、机の列番号を意味しています。

：可動机は使用しない。

4/3 (水) 11:00-12:00

4共30

予定学生人数 265人(教室最大定員 376人)



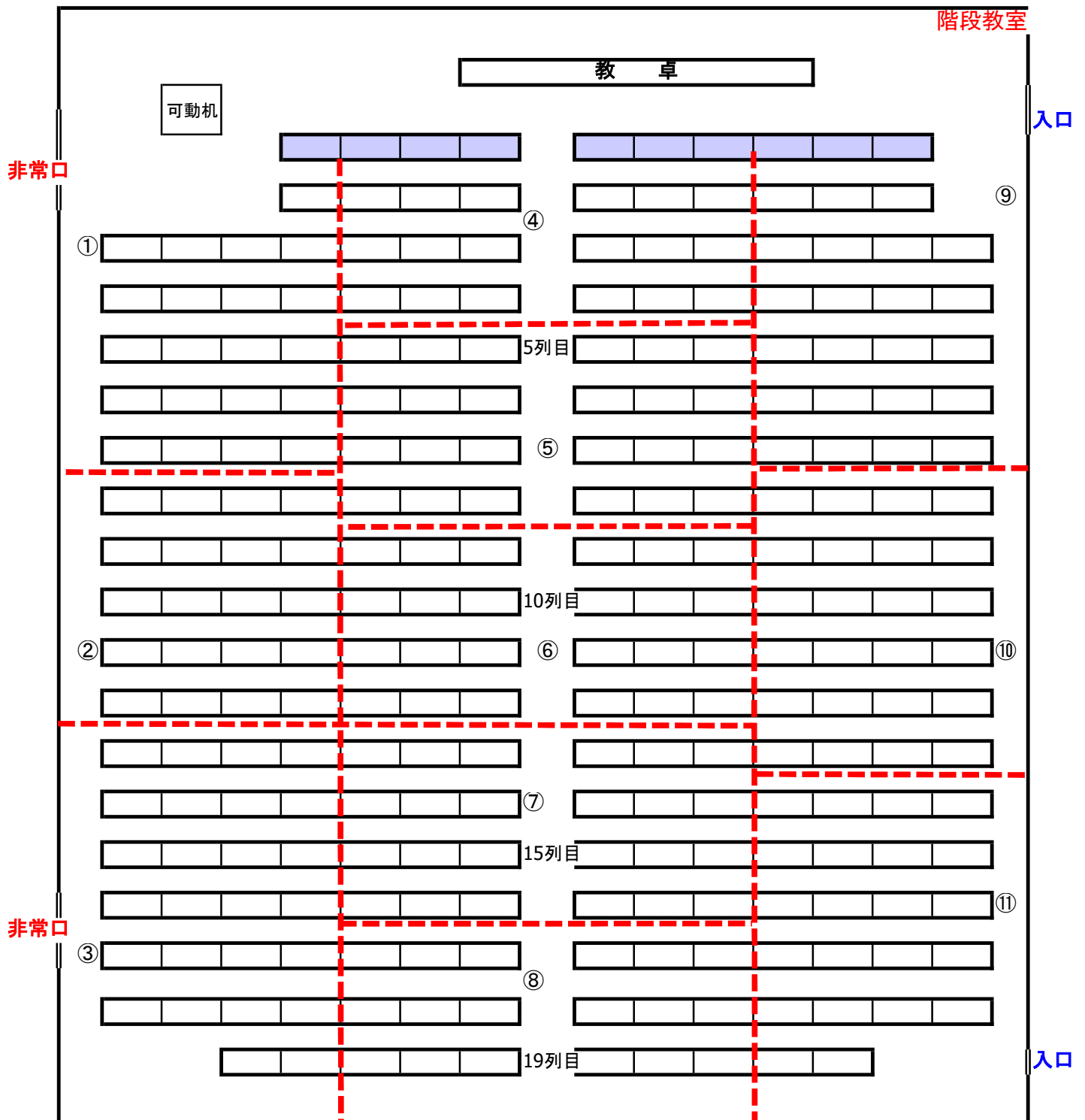
○に囲まれた数字は、サポートスタッフ番号を意味し、担当していただく機の範囲を赤の破線で示しています。
数字は、机の列番号を意味しています。

□: 可動機は使用しない。

4/3 (水) 14:00-15:00

4共11

予定学生人数 220人(教室最大定員 250人)



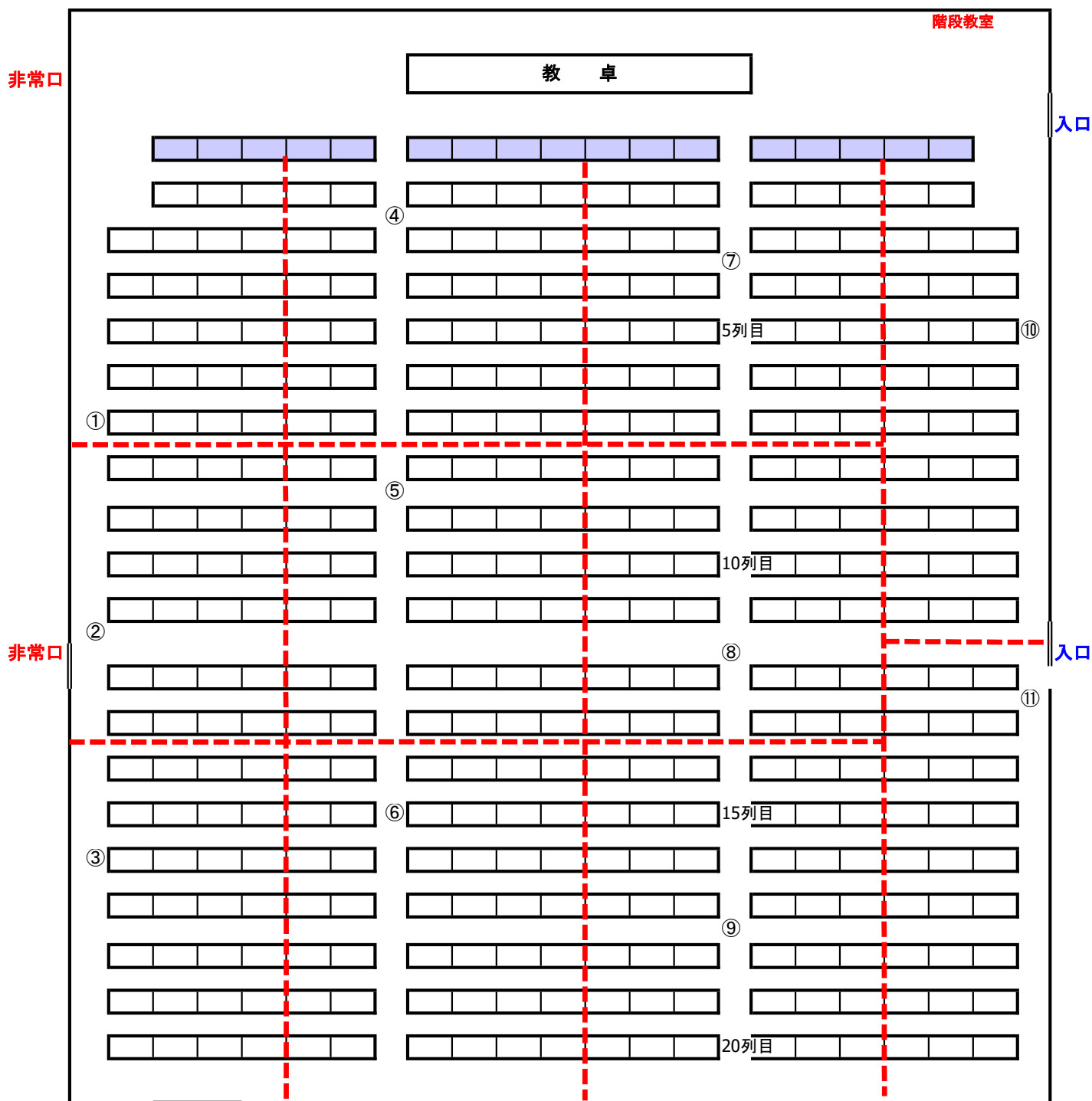
○に囲まれた数字は、サポートスタッフ番号を意味し、担当していただく机の範囲を赤の破線で示しています。
数字は、机の列番号を意味しています。

可動機は使用しない。

4/3 (水) 14:00-15:00

4共30

予定学生人数 235人(教室最大定員 376人)



非常口

○に囲まれた数字は、サポートスタッフ番号を意味し、担当していただく机の範囲を示しています。
数字は、机の列番号を意味しています。

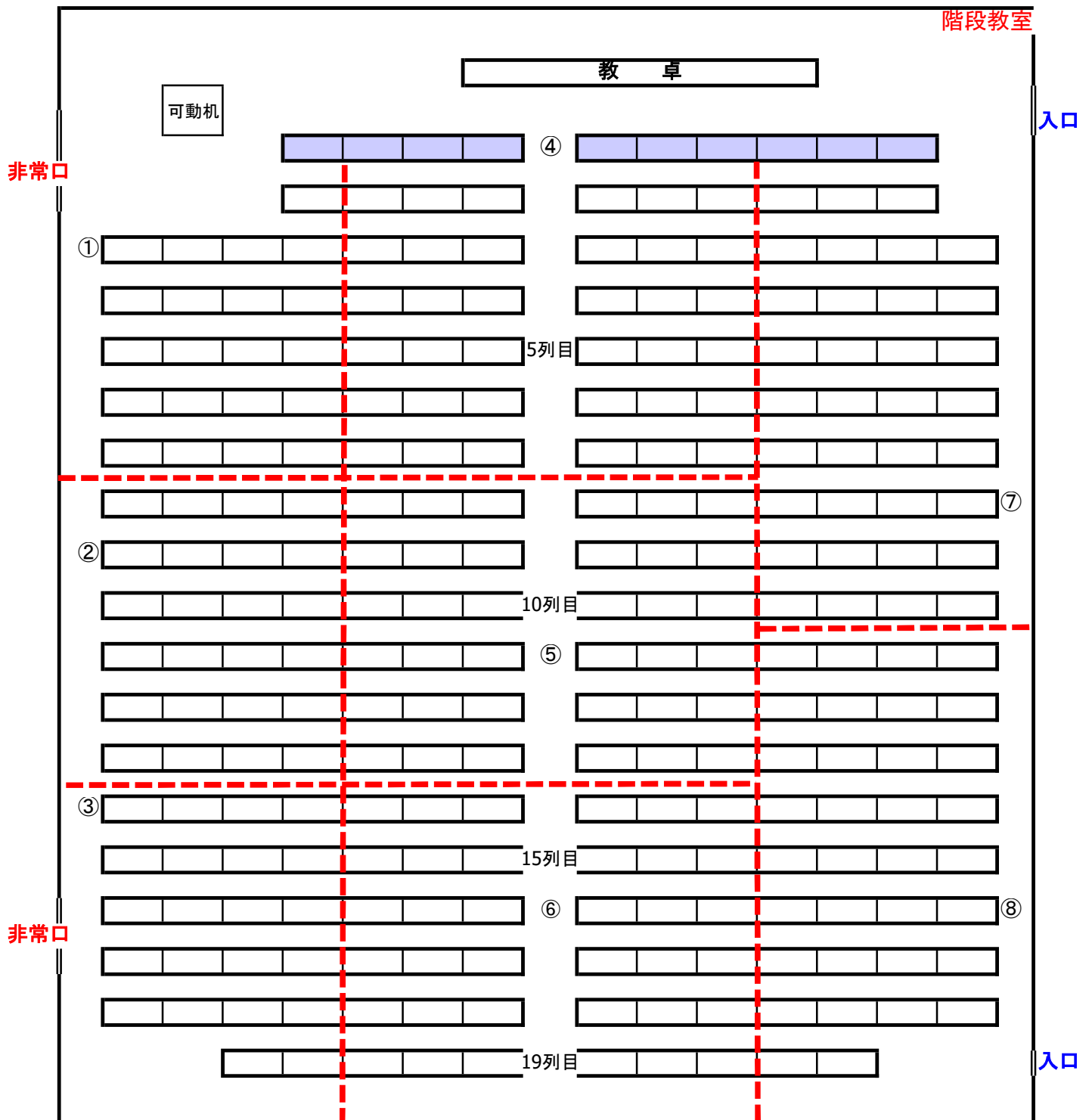
■ : 可動機は使用しない。

4/4 (木) 11:00-12:00

4共11

予定学生人数 180人(教室最大定員 250人)

階段教室

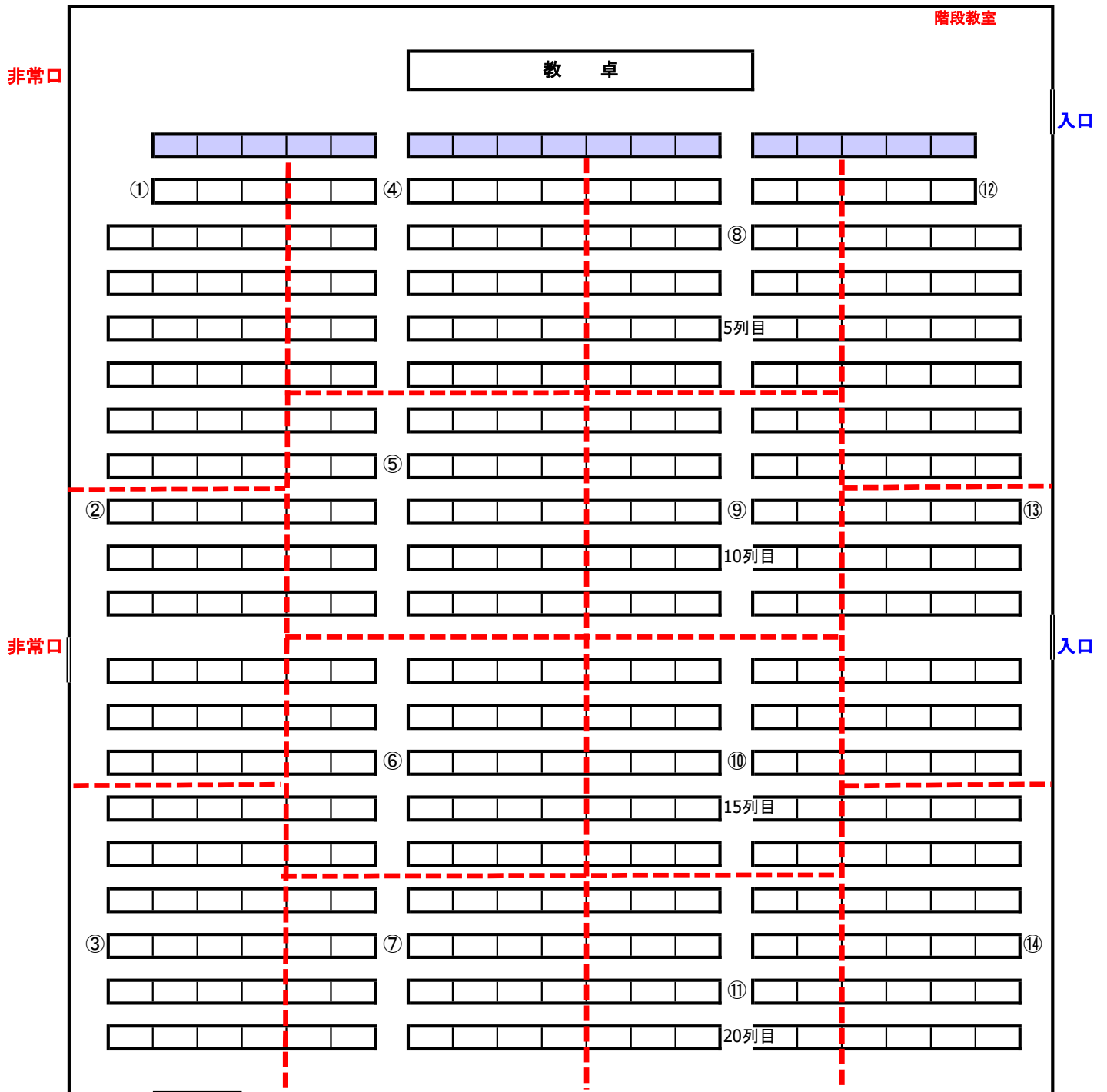


○に囲まれた数字は、サポートスタッフ番号を意味し、担当していただく机の範囲を赤の破線で示しています。
数字は、机の列番号を意味しています。

：可動機は使用しない。

4/4(木)11:00-12:00
4共30

予定学生人数 311人(教室最大定員 376人)



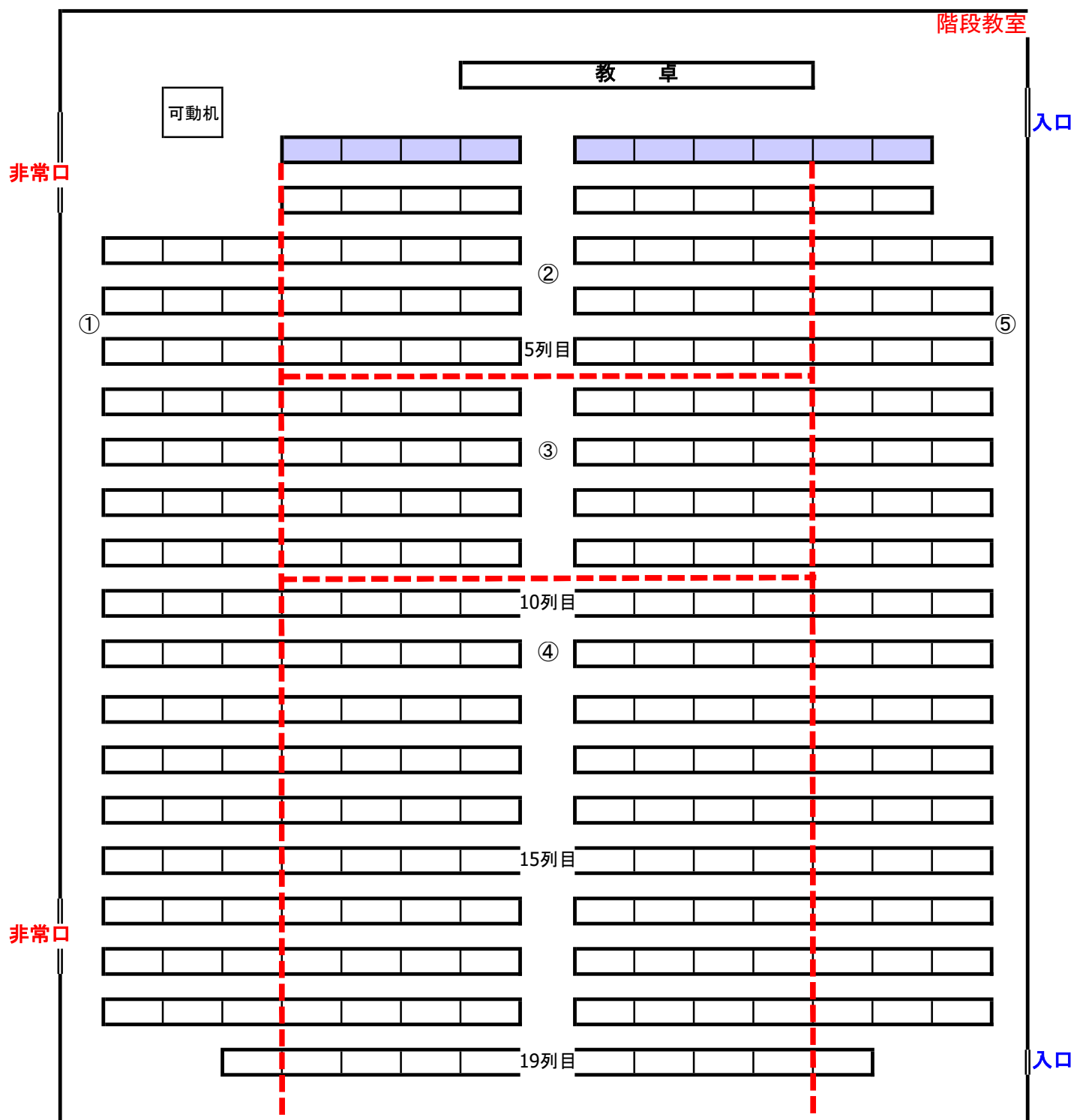
○に囲まれた数字は、サポートスタッフ番号を意味し、担当していただく机の範囲を赤の破線で示しています。
数字は、机の列番号を意味しています。

■: 可動机は使用しない。

4/4(木)14:00-15:00

4共11

予定学生人数 107人(教室最大定員 250人)

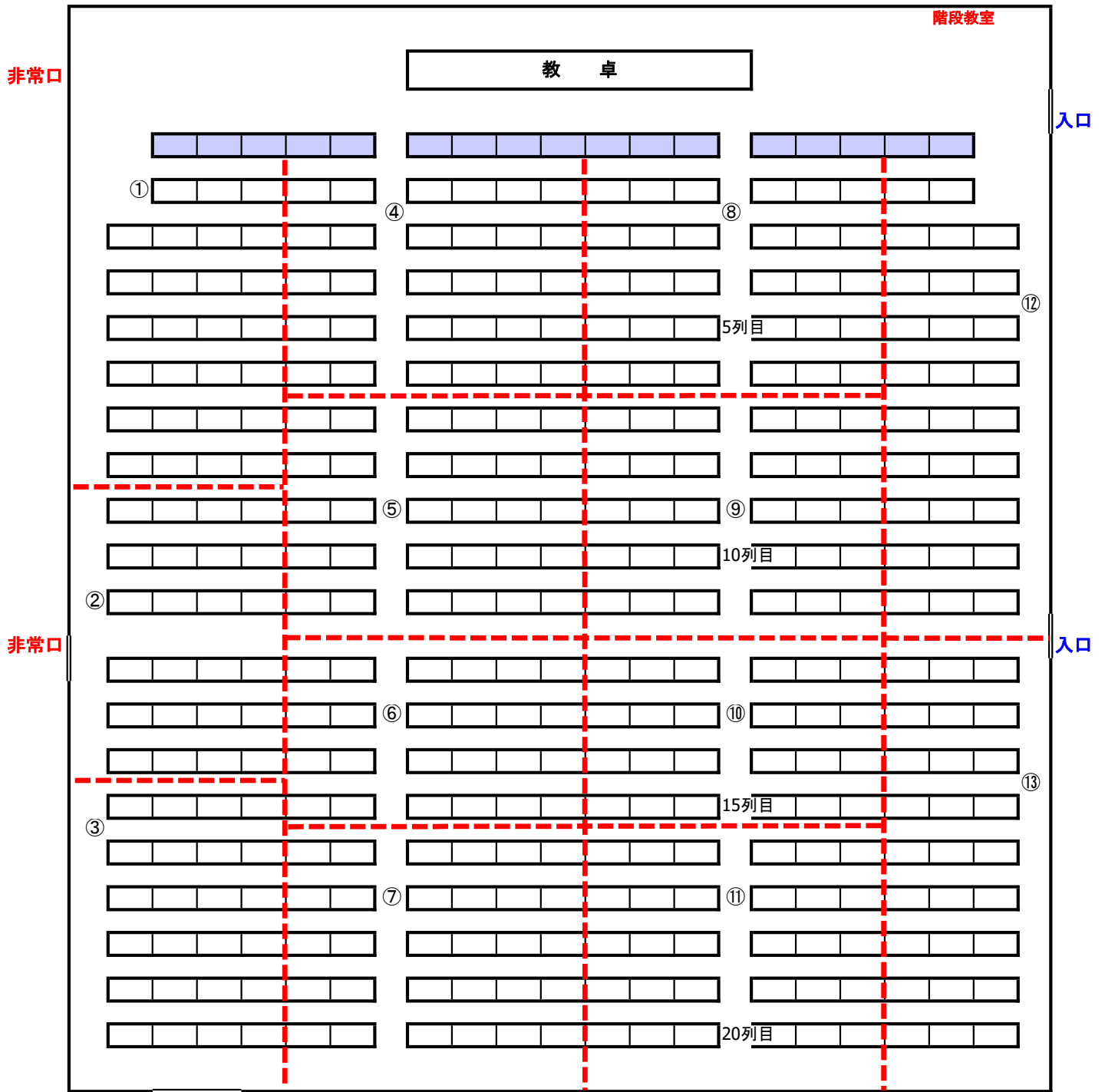


○に囲まれた数字は、サポートスタッフ番号を意味し、担当していただく机の範囲を赤の破線で示しています。
数字は、机の列番号を意味しています。

■:可動機は使用しない。

4/4(木)14:00-15:00
4共30

予定学生人数 300人(教室最大定員 376人)



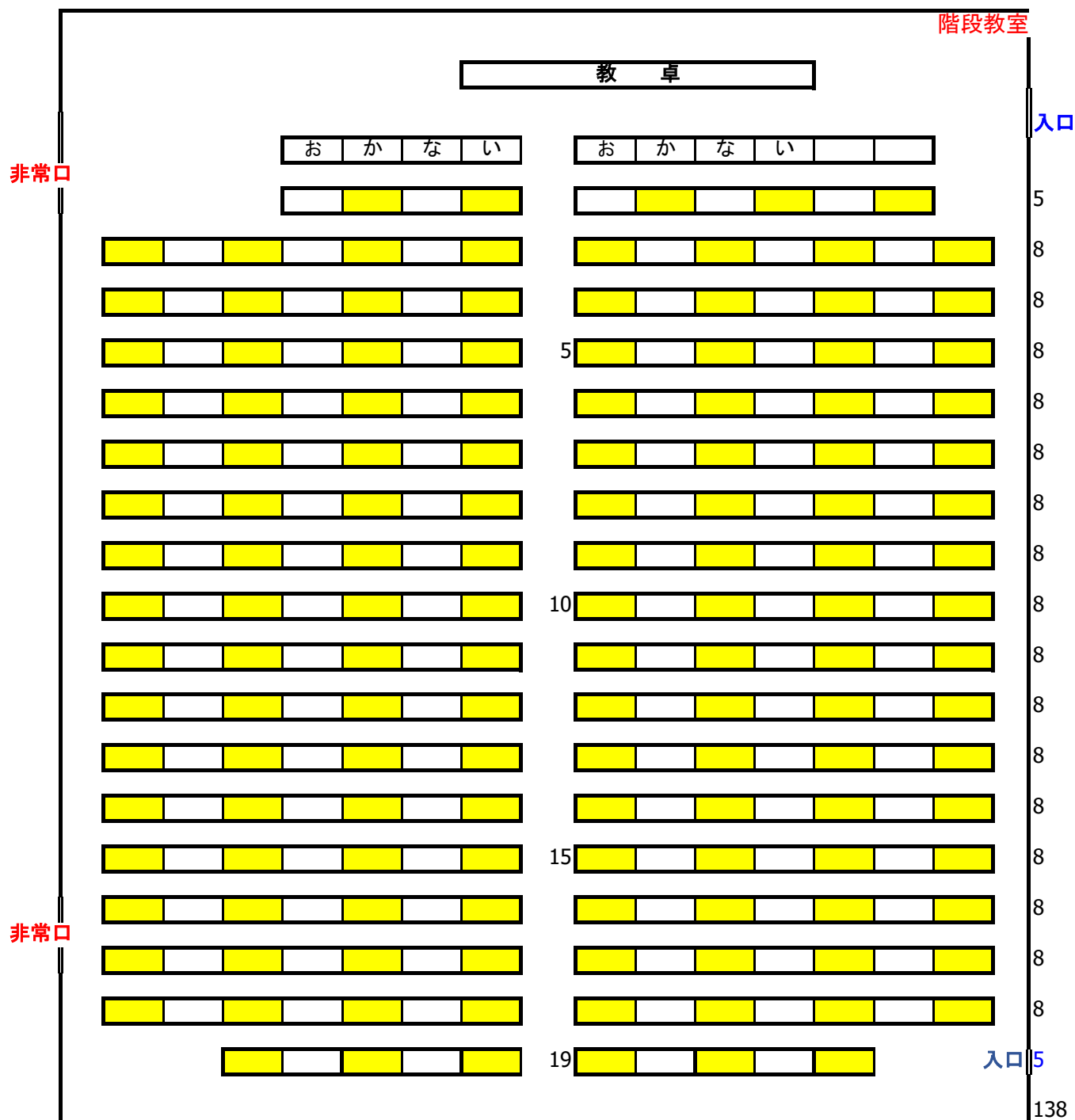
○に囲まれた数字は、サポートスタッフ番号を意味し、担当していただく机の範囲を赤の破線で示しています。
数字は、机の列番号を意味しています。

■: 可動机は使用しない。

あっぱくん配置
4共11(定員254人)

予定学生数 最大235人
あっぱくん配置数 138個(7箱運搬)

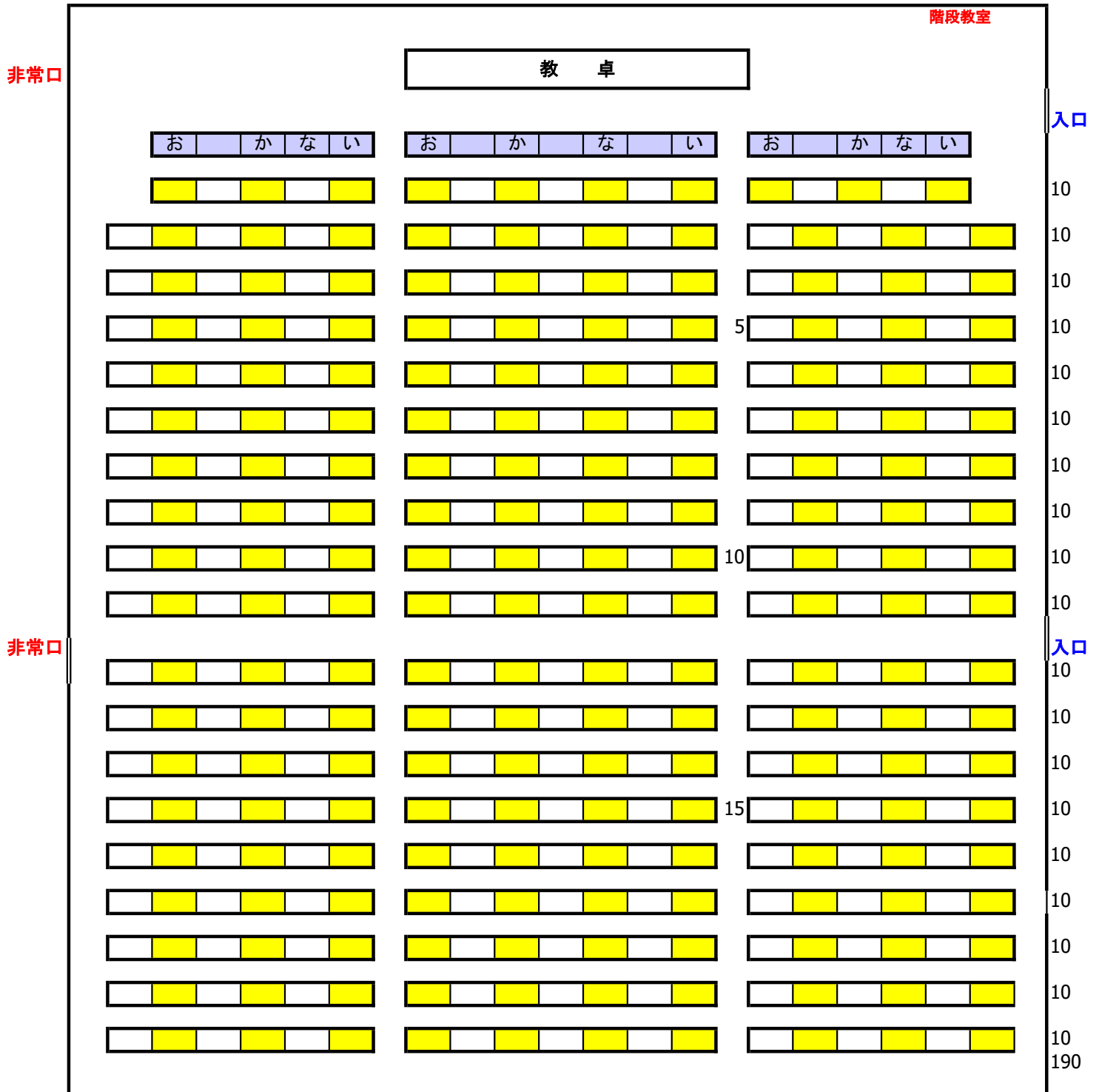
- 黄色でマークしている**机の上**に、あっぱくんを1個ずつ置いていってください。
- 先頭列は可動式の**机**のため、安全面を考慮して配置しないでください。



あっぱくん配置
4共30(定員376人)

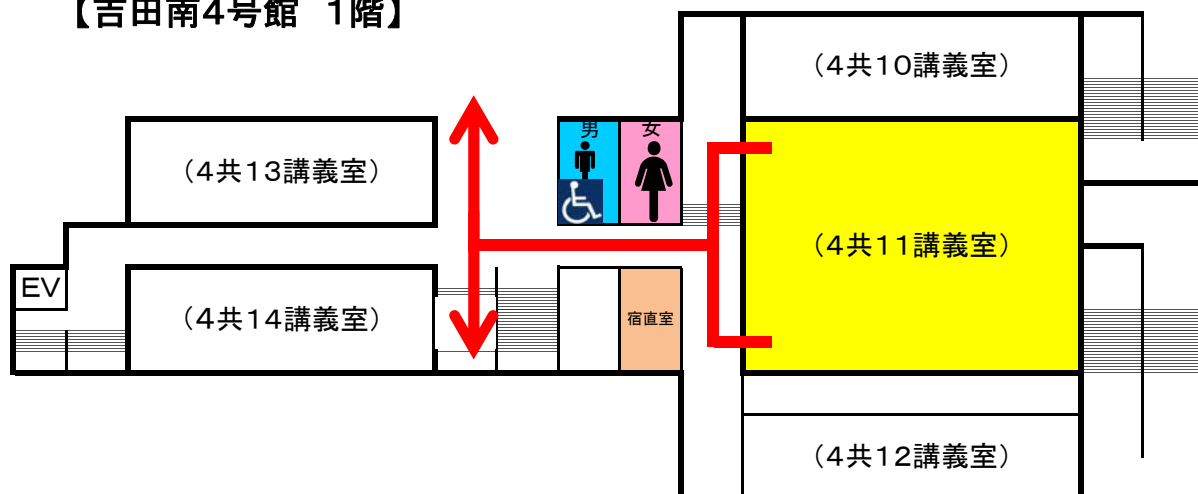
予定学生数 最大330人
あっぱくん配置数 190個(10箱運搬)

- 黄色でマークしている机の上に、あっぱくんを1個ずつ置いていってください。
- 先頭列は可動式の机のため、安全面を考慮して配置しないでください。

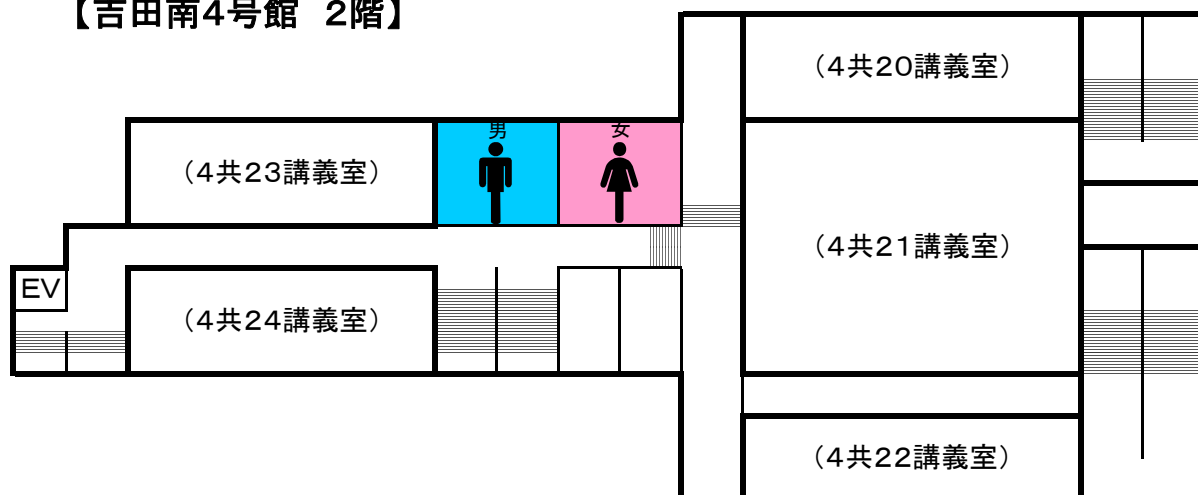


吉田南4号館 避難経路図

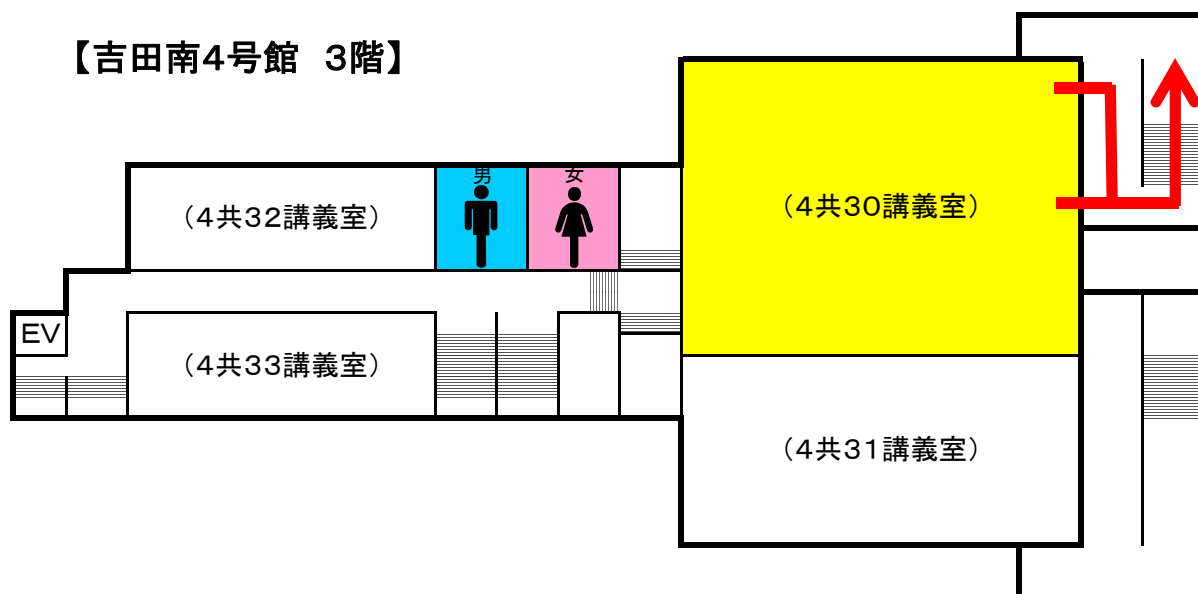
【吉田南4号館 1階】



【吉田南4号館 2階】



【吉田南4号館 3階】



2024 年度新入生 3000 名への救命救急講習の計画立案、運営、サポートスタッフ手順書作成は、救命救急講習 Project TEAM メンバーおよび、人間健康科学系専攻の教員によって行いました。

【救命救急講習(あっぱくん)ProjectTEAM メンバー】

チームリーダー	石見 拓 (医学研究科・予防医療学分野・教授)
サブリーダー	梁 楠 (医学研究科・人間健康科学系専攻・教授)
チームメンバー	大鶴 繁 (医学研究科・初期診療・救急医学分野・教授)
チームメンバー	金丸敏幸 (国際高等教育院・准教授)
チームメンバー	江川達郎 (人間・環境学研究科 認知・行動・健康科学講座・助教)
チームメンバー	島本大也 (医学研究科・予防医療学分野・特定助教)
チームメンバー	浅瀬万里子 (医学研究科・人間健康科学系専攻・助教)
コーディネーター	西山知佳 (医学研究科・人間健康科学系専攻・准教授)

【救命救急講習(あっぱくん)WG メンバー】

田畑阿美 (医学研究科・人間健康科学系専攻・講師)
細川陸也 (医学研究科・人間健康科学系専攻・講師)
榛葉旭恒 (医学研究科・人間健康科学系専攻・助教)
金橋 徹 (医学研究科・人間健康科学系専攻・助教)
廣野哲也 (医学研究科・人間健康科学系専攻・特定助教)